



未来のために、いま選ぼう。



高梁川流域連携中枢都市圏事業

高梁川流域学校

第3期年次報告書

2018年3月

一般社団法人 高梁川流域学校



備中は、まさに一円

高梁川流域学校を開いてから、三年が過ぎようとしています。

流域の風土(自然環境)と文化(暮らしの歴史)を正當に理解して、それをさまざまな地域活性化に生かしていく。そうした活動を次世代にもつないでいく。その主旨のもとで、備中志塾や高梁川トレイル、町家deクラス、聞き書きなど「四の試みをはじめています。

高梁川流域学校での活動をはじめ、あらためて実感したのは、「流域のまとまりのよさ」ということです。いいかえれば、「備中のまとまりのよさ」ということです。

備中とは、いうまでもなく古代から近世まで続いた国割りにもとづいています。この備中のほぼ全域を、高梁川とその支流が網の目のようにつないで流れ、瀬戸内海に通じているのです。支流の最上流の一部が備前や備後にかかつてはいますが、高梁川は備中域内で完結をみている、といえます。その川の流れが、それぞれの平地や台地、山地を区分したり迂回したりしているのです。けっして大河とはいえない高梁川という支流。それは、私たちの暮らしを分断するものではありません。あくまでも、人くさい高梁川流域なのです。

ゆえに、小盆地や小台地ごとにそれぞれの歴史・文化の相をもちながら、備中は「一円」なのです。歴史を通じて安定して平和な暮らしを保ってきた、その大きな理由をもそこに見出せるでしょう。

このような土地柄は、全国的にみても特異なものです。私たち高梁川流域学校にたずさわる者は、この地の利を生かし、それぞれの地域での活動を連携して、「備中人の誇り」を過去・現在・未来としっかりとつないでいきたい、と思います。皆さまのいっそうのご理解とご協力をお願いするしだいです。

高梁川流域学校 校長 神崎宣武



神崎 宣武(かんざき のりたけ)

一九四四年、岡山県生まれ。民俗学者。主な研究テーマは、「民間信仰」、「まつりと食文化」、「旅と観光」など。現在、旅の文化研究所所長、文化審議会専門委員、東京農業大学客員教授、岡山県文化振興審議会委員などをつとめる。岡山県宇佐八幡神社宮司でもある。

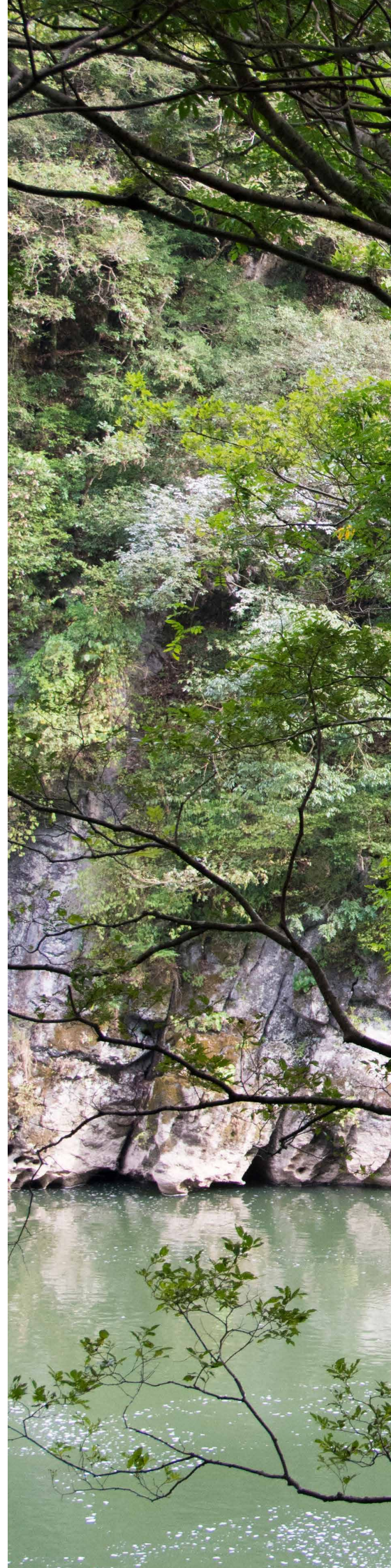
主著に、『神さま仏さまご先祖さま—「ニッポン教」の民俗学』(小学館)、『「うつわ」を食らう—日本人と食事の文化』(日本放送出版協会)、『図説 日本のうつわ—食事の文化を探る』(河出書房新社)、『三三九度—日本的契約の民俗誌』(岩波書店)、『江戸の旅文化』(岩波新書)、『「まつり」の食文化』(角川選書)、『酒の日本文化』『しきたりの日本文化』『旬の日本文化』『「おじぎ」の日本文化』(角川ソフィア文庫)、『大和屋物語—大阪ミナミの花街民俗史』(岩波書店)などがある。



高梁川流域学校

目次

- 02 ご挨拶
一般社団法人高梁川流域学校 校長 神崎 宣武
- 03 目次
- 04 高梁川流域学校について
一般社団法人高梁川流域学校 代表理事 大久保 憲作
- 07 事業紹介
- 08 高梁川ミーティング
- 10 備中志塾
- 12 高梁川トレイルによる風土ツーリズム開発
- 14 高梁川マルシェ
- 16 SAVE JAPAN プロジェクト
- 18 高梁フォレストジャンボリー
- 20 備中の食育
- 22 事業構想塾
- 24 備中 no 町家 de クラス
- 25 高梁川の環境保全
- 26 水島コンビナートの進化
- 27 こども造形ひろば
- 28 環境保全型森林ボランティア活動
- 29 2017高校生による 海・山で暮らす匠への「聞き書き」
～海と山をつなぐ～
- 30 関連組織概要
- 43 高梁川流域学校組織概要



高梁川流域学校について

一般社団法人高梁川流域学校代表理事 大久保憲作

高梁川流域学校は、

日本でも珍しい

「流域思考」の運動です。

大正12年に大原孫三郎氏により創設された倉敷中央病院の温室に石造りの噴水があります。円柱にはドイツ語で刻まれた謎の言葉、ある日その意味を大原あかね大原美術館理事長に聞きました。さすがは10代目、10日ほど経って「JOHNE WASSER KEIN JEBEN」とは、「水なきところに生命なし」の意味です。よと教えて下さいました。そうか、この水とは高梁川の流れを指している。高梁川により流域には多様な生命が育まれている、妙に納得しました。

大原總一郎氏が若き日に、ドイツのライン川を訪ねた時の思いをあたため、1994年に設立した高梁川流域連盟の高邁なビジョンを、現代的に実現しようと高梁川流域学校を始め3年が経過しました。有能な活動家の理事や全国的な知名度をもつ顧問の方々の知恵と実行力によって多くの有益な事業が行われてきました。5年を運動の区切りとすれば、残すは後2年。いま私は、フランスの詩人の言葉「選ばれてあることの恍惚と不安と二つ我にあり」の心境です。

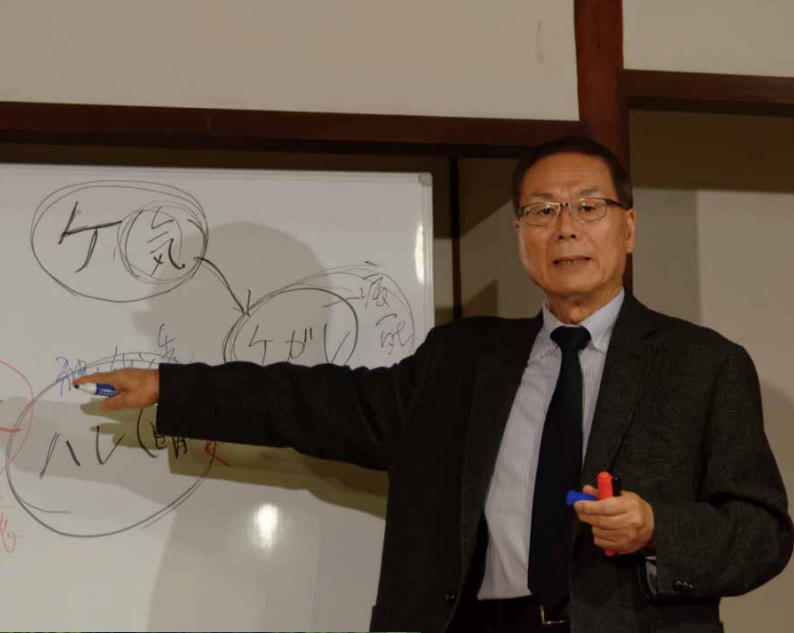
高梁川流域連盟と流域学校の目指す所は明らかに同心円上にあり、備中そして高梁川流域の文化的・歴史的・社会的な土地の風土(「ゲニウス・ロキ」)を学び、持続的に発展させて次の世代に繋ぎ伝えて行くこと、まさにESDそのものです。それを市民・企業・行政の若い方が学習し意識(価値)を共有する場が流域学校です。ライフワークとして高梁川に係わることの喜びと同時に、この思い(価値)が若い方の心を動かすかどうか

かの不安があるのです。

その答えの一つがバックキャスト手法の活用。2050年にこの流域での暮らしをイメージする。過去の常識的な幸せ観ではなく、社会環境が二変し思いもよらなかったような幸せ観に満ち溢れた暮らしを想像する。自分と未来の家族を登場人物にして、文字や画像で幸せな家族の暮らしを表現する。そこに、とんでもなく幸せな、愉快な日本人の暮らしがあつて欲しいのです。

未来を託す若者にこの夢と思いを伝える仕組みを2年で作り上げる事、これが学校のSDGsを見据えたESD。その為に不可欠の応援組織が11人委員会(後述)なのです。

高梁川流域はもちろん、日本全国にある河川の流域は東京から見れば辺境の地ですが、日本自体が世界の辺境であり、どちらも辺境だからこそ大きなチャンスがあると信じています。



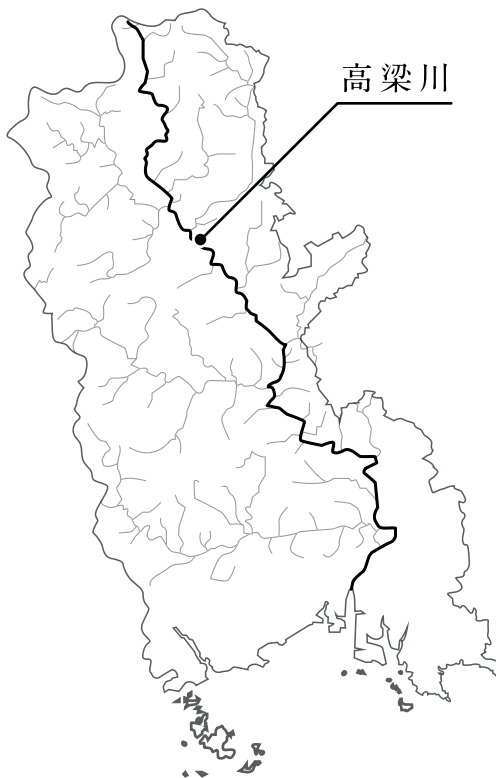
風土を
学び
次世代に
繋ぐ

未来を
創る
仕事を
興す

先人に
学び
匠に習う

節季を
感じ
旬を
味わう

自然を
楽しみ
多様性を
知る



高梁川流域圏

- 新見市
- 高梁市
- 総社市
- 早島町
- 倉敷市
- 矢掛町
- 井原市
- 浅口市
- 里庄町
- 笠岡市

高梁川流域学校について

高梁川流域学校は、大学・企業・地域団体・自治体などと連携し、流域の自然や歴史・文化、及び産業を「地域教育」の教材として、持続的に提供することを目的としています。

これらの活動により、「学校教育」「家庭教育」を補完し、若い世代の郷土愛・地域への誇りを醸成するとともに、さらに自治体や企業の人材育成研修を実施し、将来は、風土ツーリズムとしての地域観光プログラムの事業化を目指しています。

持続可能な開発目標 (SDGs) とは

- 1 2015年9月、国連総会で採択
- 2 2030年の世界目標
- 3 17のゴールと169のターゲットで構成
- 4 貧困や教育、気候変動などの幅広い課題が網羅されている
- 5 先進国も途上国も、すべての国が関わり「誰ひとり取り残さない」

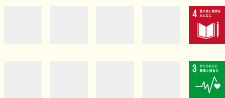
国際社会は、MDGsを開発分野の羅針盤として、15年間で一定の成果を上げました。一方で、教育、母子保健、衛生といった未達成の目標や、サハラ以南のアフリカなど一部地域での目標達成の遅れといった課題が残されました。また、深刻さを増す環境汚染や気候変動への対策、頻発する自然災害への対応といった新たな課題が生じたほか、民間企業やNGOなどの開発に関わる主体の多様化など、MDGsの策定時から、開発をめぐる国際的な環境は大きく変化しました。

2030アジェンダは、こうした状況に取り組むべく、相互に密接に関連した17の目標と169のターゲットから成る「持続可能な開発目標 (SDGs)」を掲げています。



高梁川流域学校の取り組みとSDGsとの関係

「自然を楽しむ多様性を知る」



備中志塾(主催事業)

「節季を感じ匂を味わう」



高梁川トレイル(連携事業)

「先人に学び匠に習う」



高梁川マルシェ(連携事業)

「未来を創る仕事を興す」



SAVE JAPANプロジェクト(主催事業)

「風土を学び次世代に繋ぐ」



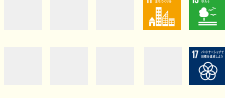
高梁川の環境保全(連携事業)

「未来を創る仕事を興す」



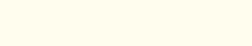
備中の食育(連携事業)

「未来を創る仕事を興す」



水島コンビナートの進化(連携事業)

「未来を創る仕事を興す」



高梁フォレストジャンボリー(連携事業)

「未来を創る仕事を興す」



高梁フォレストキャンプ(連携事業)

「未来を創る仕事を興す」



高校生による海・山で暮らす匠への「聞き書き」～海と山をつなぐ～(連携事業)

「未来を創る仕事を興す」



備中no町家deクラス(協力事業)

「未来を創る仕事を興す」



高梁川ミーティング(主催事業)

「未来を創る仕事を興す」



事業構想塾(主催事業)

高梁川流域学校 事業紹介

主催事業

高梁川ミーティング



流域未来。 2040年高梁川流域人の暮らし

平成29年度の高梁川流域学校事業報告と2040年の高梁川流域人の暮らしをテーマに、次のとおり基調講演、パネルディスカッションを実施した。

○日時：平成30年2月24日（土）10:00～16:00

○場所：倉敷中央病院3階大原記念ホール

○参加者：105名

第一部

【高梁川流域学校報告】

各事業10分報告＋質問5分

【備中志塾】「事業構想塾」

岡野智博氏（一般社団法人高梁川流域学校理事）

【高梁川トレイル】

岡野智博氏（一般社団法人水辺のユニオン代表理事）

【コンビナートの進化】

古川明氏（水島家守舎 Nadia Local Adviser）

【聞き書き】

森光康恵氏（まび工房「結」主宰）

【町家deクラス】

中村泰典氏（NPO法人倉敷町家トラスト代表理事）

高梁川流域学校の主催事業を中心に6つの事業を代表者から報告し、事業内容の理解を深めた。

それぞれの事業に関して、そこから何か新しいことを生み出していくことを課題とすることが提案された。

第二部

【挨拶】

大久保憲作氏（一般社団法人高梁川流域学校代表理事）

坂本万明氏（一般社団法人高梁川流域学校理事）

※111人委員会発足について

【来賓挨拶】

小松賢治氏（倉敷市企画財政部参事）



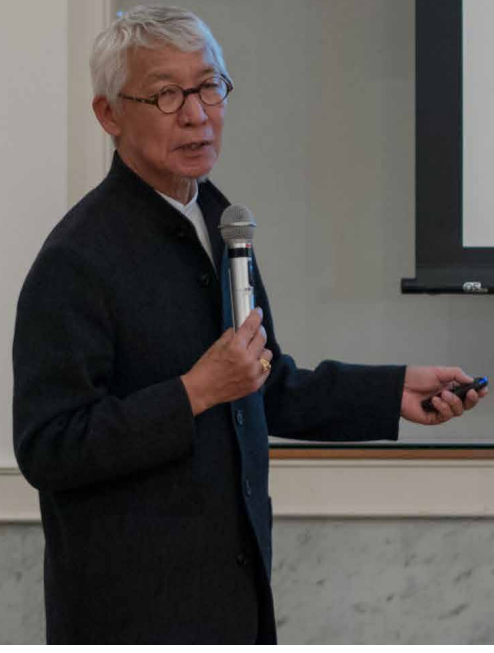
【基調講演】

演題：「高梁川流域圏2040未来へのアプローチ-バックキャスト思考で考える-」

講師：石田 秀輝氏（合同会社地球村研究室代表、工学博士、東北大学名誉教授）

石田氏からは、バックキャスト思考について分かりやすく説明を頂いた。地球環境と豊かな暮らしを天秤にかけるとは、地球環境制約の上にも心豊かな暮らしの形をつくる発想をもつこと。制約が何かを明らかにして、それを前提に解を考える思考方法で、具体的には、家の電球が切れたと仮定して、どのような行動をとるか？電気屋さんへ行って、新しい電球に付け替えるというのが、これまでのフォワード思考、目の前にある制約（問題）を否定（排除）する思考で、一方バックキャスト思考は、電球なしの生活を楽しむ工夫を始める。星空を家族で眺め、色々な話をする。目の前にはある制約問

「2040年未来へのアプローチ
「バックキャスト思考で考える」」
地球研究室代表、工学博士
石田秀輝 氏



題)を肯定する思考である。

【パネルディスカッション】

● テーマ:

「2040年の高梁川流域人(備中人)の暮らし」

● コーディネーター:

吉澤 保幸 氏(一般社団法人低炭素社会創出促進協会代表理事)

● パネリスト:

松田 礼平 氏(一般社団法人杜守理事)

高山 和成 氏(NPO法人総社商店街筋の古民家を活用する会理事)

坂ノ上 博史 氏(一般社団法人高梁川プレゼンター代表理事)

原田 珠実 氏(「結」(聞き書きOG、OBの会))

● コメンテーター:

石田 秀輝 氏(合同会社地球村研究室代表、工学博士、東北大学名誉教授)

大社 充 氏(NPO法人グローバルキャンパス理事長)

川嶋 直 氏(公益社団法人日本環境教育フォーラム理事長)

中井 徳太郎 氏(環境省総合環境政策統括官)

● 内容:

吉澤氏のコーディネートで、高梁川流域で活躍している20歳代から40歳代までの若者からその取組みを発表してもらい、その活動に関して、コメンテーターからのコメント、アドバイスをもらう形式でディスカッションを進めた。少子高齢化がピークを迎える2025年の暮らしを想定し、その制約条件の中で、今何をすべきか、どのような思考や行動を取っていく必要があるかを検討した。講演を頂いた石田氏のバックキャスト手法を使い、流域圏のあるべき姿、これから高梁川流域学校が取組む地域活動、人づくりについて検討しその方向性を打ち出した。

■ この事業の成果と課題

2040年の高梁川流域圏の暮らしについて、流域になりわいをもつ若者を中心に継続的に検討し方向性を打ち出すことになった。それを支える人材育成について、高梁川流域にローカルファイナンスの設置可能性についてもコーディネーターから言及された。

高梁川ミーティングに次世代を担う若い世代が集える環境をつくること。今後次世代人材のネットワークを広げる勉強会を開催する。



主催事業

備中志塾



備中地域の文化発信と人材育成、後世への継承 「普遍のねうち」を備えた次世代の人材育成

平成29年度備中志塾は、主会場の大橋家住宅だけでなく、流域の他地域での開催を増やすことにより、地域への二層の展開と講座の定着を目的とした。昨年度第一期卒業生による独自講座を企画実施することによって、備中志塾の知識や志を教養として学ぶだけでなく、それぞれの個性による地域での実践を行った。また昨年度の講座の書き起こし原稿をもとに、備中志塾の講座内容を書籍化するプロジェクトも開始した。

【実施内容】

【備中志塾】(場所：国指定重要文化財大橋家住宅)

※正規講座

第1回 8月25日(金)18:30～20:00 参加者33名

第2回 9月29日(金)18:30～20:00 参加者30名

第3回 10月27日(金)18:30～20:00 参加者30名

第4回 11月17日(金)18:30～20:00 参加者24名

第5回 12月15日(金)18:30～20:00 参加者25名

第6回 1月19日(金)18:30～20:00 ※廿日正月を祝う会 参加者33名

【備中学のすすめ】※高梁川流域地域団体との協働

6月23日(金)18:30～20:00 (場所：備中国總社宮)

参加者42名

7月21日(金)18:30～20:00 (場所：天柱山頼久寺)

参加者31名

8月11日(金)18:30～20:00 (場所：やかげ町家交流館)

参加者105名

9月15日(金)18:30～20:00 (場所：笠岡諸島交流センター) 参加者33名

【卒業生による講座】

9月23日(土)18:00～19:30

場所：倉敷中島屋

講師：平松二郎氏

テーマ：備中の酒蔵

参加者10名

1月27日(土)18:00～19:30

場所：倉敷中島屋

講師：藤野利明氏 テーマ：倉敷観光を考える

参加者5名(参加者合計401名)





その他、高梁川流域4信金との包括協力協定に基づいて、玉島信用金庫、吉備信用金庫の会場で2回の備中志塾を実施し、約150名の参加者があった。備中人として備中の文化認識から始めて、地域人としてのアイデンティティを確立していく考え方が民間企業にもご理解を頂き、展開をしていく大きな第一歩となった。

【今後の展開】

・平成28年度にCATVで収録したコンテンツの活用や備中志塾講座の書籍化をベースにして、高梁川流域の学校のメンバーや卒塾生による小さな備中志塾を展開する。

・備中地域の小中高等学校への備中志塾の講座内容のニーズ調査を行い、講座のアウトリーチを検討し、学校教育との連携を模索する。

・卒塾生の講座は継続的に計画する。卒塾生の横のつながりや当法人メンバーとのつながりなどネットワークを広げる仕組みを構築し、備中志塾を核とした流域学校の全体の取組への連携を検討する。

■ この事業の成果と課題

- ・平成28年度にCATVで収録したコンテンツの活用や備中志塾講座の書籍化をベースにして、高梁川流域の学校のメンバーや卒塾生による小さな備中志塾を展開する。
- ・備中地域の小中高等学校への備中志塾の講座内容のニーズ調査を行い、講座のアウトリーチを検討し、学校教育との連携を模索する。
- ・卒塾生の講座は継続的に計画する。卒塾生の横のつながりや当法人メンバーとのつながりなどネットワークを広げる仕組みを構築し、備中志塾を核とした流域学校の全体の取組への連携を検討する。



連携事業

高梁川トレイルによる風土ツーリズム開発



歩くことを通して、
高梁川流域の自然の素晴らしさや歴史・文化を学び体験

平成27年度から開発を進めた3つのルートと平成28年度に調査開発した3つのルートの6つのモニタートレイルを実施する。モニタートレイルを実施しながら、各ルートを持続する地域団体との協働の仕組みづくりを行い、観光商品としての更なる磨き上げを行い、旅行会社等と協働でマーケティング調査を実施した。

高梁川トレイルのシンポジウム、講座、ワークショップを通じて、高梁川トレイルの認知を広げ、活動の輪を拡大した。

これまでの情報をまとめ、高梁川トレイル及び風土ツーリズムを推進するための「高梁川トレイル読本」を100冊制作した。

高梁川流域の様々なトレイル団体・組織と協働した、高梁川トレイル推進組織「高梁川流域トレイル推進協議会」を設置し、協議会をプラットフォームとした流域トレイル組織の基盤強化と持続的な事業となる仕組みづくりをスタートした。

流域自治体と協働した高梁川トレイルのためのグリーンインフラ整備についての協議を行った。

【実施内容】

○高梁川トレイルの実施

(1) JR高梁駅～御根小屋跡～備中松山城～高梁美しい森ルート

協働先) NPO法人フォレストフォービープル岡山

11月25日(土)参加者4名、(講師2名)

(2) 成羽美術館～宇治～延命寺～吹屋ルート

(※吹屋～坂本～花木～鯉が窪湿原～新見哲西とセット)

※2ルート

協働先) 成羽の歴史を学ぶ会、吹屋ふるさと村

12月9日(土)～10日(日)1泊 参加者5名、(講師2名)

(3) JR倉敷駅～阿智神社～藤戸寺～天城池田～熊野神社ルート

■各年度の取組の計画

年度	内容
平成27年度	高梁川トレイル3つのルート開発 備中松山城、魚荷道(成羽～吹屋)、倉敷川ルート開発とオープンストリートマップの制作を行った。
平成28年度	高梁川トレイル新3つのルート開発 魚荷道(金浦～三山)、鬼ノ城、吹屋往来ルートと既存3ルートの磨き上げ
平成29年度	高梁川トレイル6ルートの仕上げ トレイル読本制作、高梁川流域トレイル協議会設立、グリーンインフラ整備



2月4日(日) 参加者6名、(講師1名)

(4) 笠岡金浦～矢掛町～美星町三山(明治期「魚荷道(とと道)」)

協働先:金浦歴史研究会、北川の昔を訪ねる会、矢掛町史跡めぐり同好会、美星町文化財同好会等

第1回:1月14日(日)※バス利用 参加者23名、(講師3名)

第2回:1月28日(日)※バス利用 参加者20名、(講師3名)

事前準備(トレイル整備・指導):11月15日(3名)、11月22日(3名)

(5) 岡山県立大学～砂川公園～鬼ノ城～血吸川～足守

協働先:総社トレイルラン
2月3日(土) 参加者8名、(講師1名)

以上、6ルートにおいてモニターツアーを実施し、計66名の参加があった。マーケティング調査については、(株)

「TB中国四国交流創造事業部等と観光商品化に向けたヒアリングを実施した。

○シンポジウム、講座の開催
(1) シンポジウムの開催

第1回 時期:平成29年12月8日(金)13:00～17:00

場所:倉敷市芸文館
講師:森山上志氏、小見山節夫氏、高橋武良氏

参加者:32人
内容:高梁川トレイル協働の仕組みと可能性

(2) 講座の開催(対象者:高梁川流域を中心とした近隣住民)

第1回 時期:平成29年7月7日(金)10:30～12:00

場所:矢掛交流館

講師:森山上志氏

参加者:10人
内容:笠岡金浦～矢掛町～美星町三山ルートについて

第2回 時期:平成29年10月30日(月)18:00～19:30

場所:高梁市立図書館4階多目的室
講師:小見山節夫氏、

参加者:9人
内容:JR高梁駅～御根小屋跡～備中松山城～高梁美しい森ルート

成羽美術館～窓坂峠～宇治～延命寺～吹屋ルート、

吹屋～坂本～花木～鯉が窪湿原～新見哲西ルートについて

第3回 時期:平成29年12月16日(土)18:00～19:00

場所:倉敷中島屋
講師:高橋武良氏

参加者:5人
内容:倉敷川を辿るルートについて

○高梁川トレイル読本の制作
事業期間中に高梁川トレイルのマップだけでなく、コースの背景や目的、各所の解説などを記載した読本を、1,000部制作した。

○高梁川流域トレイル推進協議会の設置
2017年5月20日(火)高梁市成羽文化会館にて、「高梁川流域トレイル推進協議会」設立総会を開催した。事業期間中に協議会の運営体制をまとめることとした。

○高梁川トレイルのためのグリーンインフラ整備
高梁川トレイルを円滑に実施するためには、毎

年雑木や倒木の除去や間伐が発生する。このことは、トレイルだけでなく森林の機能を維持するために必要なことであることから、トレイルに関係している自治体と協議してそのための作業を持続する仕組みを検討した。

高梁川トレイル6つのルートの仕上げが出来た。平成27年度から開発したルートは、これまで各ルートを研究してきた地域団体の方々や地域の方々との協力なしには実現しなかった。それらの関係者の方々との仕上げ作業を行い、モニターツアーも天候不順等のため回数が減ったため参加者は少なかつたが満足感には非常に高かった。ルートの歴史や景観などの魅力は勿論のこと、長い時間一緒に歩くことで年代や性別を超えてつながる感覚があり、コミュニティ形成の原点を感じた。成羽～吹屋(宿泊)～吉岡銅山～坂本～新見哲西のルートは、唯一バス会社(備北バス)の観光商品として販売し、1泊2日のプログラムを作ることに成功した。今後備北バスとは、継続的に商品化を進める計画である。

■ この事業の成果と課題

・魚荷道(とと道)の開発やモニターツアーに関しては、備中の各地域をつなぎ、多くの団体や個人が関わり、協働の中でとても良いトレイルが完成した。ただ距離が長く、内容も非常に多岐にわたることから旅行会社が扱う商品としては、難しい内容であることもわかった。今後どのようにプログラムを実施するか新しい視線で検討する必要がある。・風土ツーリズムとしては、備北バスと協働で企画した成羽～宇治～吹屋(泊)～吉岡銅山～坂本～哲西ルートが、参加者(5名)と少なくはあったが、旅行会社側からの反応も良く、次につなぐ企画に可能性が出た。

・トレイル講師の高齢化の課題。現在高梁川トレイルに中心的に関わっている先生方は、65歳以上で80歳を超える先生方もいる状況である。若い後継者への引き継ぎも大きな課題となっている。

・今後は、高梁川流域トレイル推進協議会をベースにして、これまでに開発した6つのトレイルの情報を基礎として、もう少し距離を短くしても魅力があり安全で食などの楽しみのあるトレイルにカスタマイズして、高梁川トレイルが商品化として成立していく方策を、備北バスなど関心をもつ事業者と開発していく。



連携事業

高梁川マルシェ



美しく幸福な暮らし方を感じる時間を 流域のこだわりの食と暮らしの雑貨を通して提供

高梁川マルシェは、国指定重要文化財大橋家住宅を主会場として、平成24年度から高梁川流域のこだわり食とモノづくりの作家とのコラボレーションを創り出すことで、流域の文化発信とともにまちのにぎわい創出を目的に開催してきた。高梁川マルシェでは、「流域時間の過ごし方」をテーマに、マルシェという形態で観光振興も視野において、毎回新しい趣向を加えて実施してきた。平成29年度は、春第11回目と秋12回目の開催となるマルシェでは、11回目では大橋家住宅の不浄門の開放と中庭の活用をテーマとし、12回目ではおみやま県民文化祭地域フェスティバル事業「文化がまちに出る！地域いきいきプロジェクトinくらしき」事業として、倉敷のまちや高梁川流域を近くに感じ、食や音楽、デザインに溢れた時間を過ごす総合的な文化発信を行った。

○第11回 平成29年5月20日(土)21日(日)

会場：大橋家住宅 参加者：1,000人

大橋家住宅長屋門東端の門を開放し、南北につながる通路を活用してマルシェの導線、展示範囲を拡大し、これまで使用してこなかった中庭にテントを張って、新たに屋外カフェ空間を演出した。4月末に同じく長屋門にオープンした「倉敷中島屋」とのコラボも実現し、文化財の創造的な活用を進めることが出来た。阿知3丁目の駅前通りの西地区の活性化の拠点としてのプレゼンスを向上させることが出来た。

○第12回 平成29年10月7日(土)8日(日)
会場：大橋家住宅、阿知2丁目ひろば
参加者：2,000人

おみやま県民文化祭地域フェスティバル事業「文化がまちに出る！地域いきいきプロジェクトinくらしき」事業の一環として、以下の3つのマルシェを実施した。

1. 高梁川マルシェ：内容：国指定重要文化財大橋家住宅及び阿知2丁目広場での食やモノづくりの文化プロジェクトinくらしき。マルシェでは生産者や作家たちとの会話やワークショップを体験する。実施期間：平成29年10月7～8日の2日間。





2. 音楽マルシェ：内容：大橋家住宅で岡山で活躍している音楽家と食のコラボで夜のマルシェを実施する。
 実施期間：平成29年10月7日(土)18:00～20:30
 3. まち歩きマルシェ：内容：倉敷駅から倉敷の中心市街地のまち歩きを楽しみながら、食やモノづくりの作家たちの現在を知り、マルシェ全体を楽しむ。実施期間：平成29年10月7～8日の2日間(1日1回)

高梁川マルシェは、マルシェという形態をとった高梁川流域の食やモノづくりの文化発信の場である。毎回参加者の創意工夫と情熱によって新しいマルシェが誕生している。単にモノの売り買いだけでなく新しいコミュニティにもなっている。大橋家ご当主の高配によって、文化財の創造的な活用という推進させて頂けることで、作家やアーティストも文化財にインスパイアされて、既視感の無い新しい空間創造をしている。伝統的なものと新しい何かの出会いがある。これからもそんなマルシェづくりをすることを目指していく。

■ この事業の成果と課題

【成果】集客は約2,500名と大きな成果とはならなかったが、美観地区側から倉敷中央通りを超えて、人の流れをつくることには段々と実績が出来つつある。イベント型のマルシェは非常に多くなり、ただモノを販売するだけというマルシェも多いが、高梁川マルシェの質感を求めて参加頂く顧客も確実に増加している。

【課題】今後は参加者数だけでなく、参加者の属性や出店者のマルシェでの販売金額についても大学等と連携して調査し、他のマルシェとの差別化を進めることが課題となる。マルシェについても次世代人材の育成や大学生のインターンシップ受入などを進めていくことも課題である。



SAVE JAPANプロジェクト



高梁川流域に生息する希少種生物を通して、 人の生活と自然環境のバランス、生物の多様性の重要性を学ぶ

SAVE JAPANプロジェクトとは、損保ジャパン日本興亜株式会社が、森林への環境負荷を軽減させるためペーパーレスを推進する中で、顧客にWEB定款を薦め、顧客がそれを選択することによりその差分金額を寄付し、NPOと地域の環境団体が一緒になって、全国各地で「いきものが住みやすい環境づくり」を行うプロジェクトである。岡山県では、2014年度から高梁川流域学校が、地域の環境団体、岡山NPOセンター、日本NPOセンターと協働して、高梁のブッポウソウ、新見のウスイロヒヨウモンモドキなど希少種生物の保護活動を通して、市民の皆様の環境保全意識の向上を目的とした屋外イベントを開催している。

観察だけでなく保護活動を通して、年間を通じた生物と生物のための環境づくりの啓発を行っている。

【実施内容】

平成29年6月10日(土)ウスイロヒヨウモンモドキの観察

○概要 高校生以上を対象として、新見市草間台土橋振興会等の地域住民と協働して、絶滅危惧種I種に指定されているウスイロヒヨウモンモドキの生態観察と自然観察を行った。昨年下半年刈りをしたウスイロヒヨウモンモドキの自然状態での羽化が注目されたが、ゲージの中で人口飼育されているサナギ中心の観察となった。参加者26名。

○実施内容

松尾秀行氏によるウスイロヒヨウモンモドキの生態講義を行った。活動の歩みの説明が行われ、生息地のカヤ

を刈ったり、エサのカノコソウの確保に取り組んだり、これまでの成果やこれからの問題について聞くことが出来た。引き続き、生息地での観察会開かれた。ゲージ内でサナギの姿を確認することができた。

○成果

・絶滅寸前の希少なチョウの保護活動をしている地元住民や専門家のこれまでの活動の歩みを学ぶことにより、絶滅から守り残していくことの重要さと大変さを知ることができた。

・参加者からは、「ウスイロヒヨウモンの卵やサナギを観察出来た」「地域の方々と交流が持てた」「松尾先生のお話が分かりやすかった」「ウスイロヒヨウモンモドキが舞う様子が見れなかったが、飼育の様子を観察できた」などのコメントがあった。

平成29年7月2日(日)ブッポウソウの巣箱観察

○概要 親子を対象として専門家(黒田聖子氏、小見山節夫氏)による高梁美しい森周辺に生息する、ブッポウソウ(絶滅危惧II類に指定)の観察を行った。ブッポウソウが生息する環境にも理解を深めるための周辺地域の自然観察も行った。参加者32名。

○成果

・地域の人と専門家と企業の人たちが一緒に努力を続けることで、ブッポウソウを子どもたちが見ることが出来、感動してくれていた。参加者からは、「近くで裸眼でブッポウソウを観察出来る事がで



きた！」「希少生物に対してどういう活動をしているのか知ることができた」「黒田先生小見山氏のブッポウソウに関連する他では聞けないお話が聞けた」「企業の方々が、環境保全活動に取り組まれることに好感を覚えます。これからも先導いただき、さらに拡大の方向に進むように祈っています」などのコメントがあった。

・実際にブッポウソウを見られて多くの人が楽しめた。子ども達も、ブッポウソウの巣箱を作りたい、ブッポウソウや他の鳥も見たい、と今回のイベントに留まらず、次回への期待を持った。自然への興味を深めたりしていた。

平成29年10月15日(日)ブッポウソウの巣箱つくりと自然観察

○概要 親子を対象として、高梁美しい森周辺に生息するブッポウソウの生態を学ぶ講座と巣箱づくり、そして今季滞在し子育てを終えた巣箱の観察を行った。体験前の講義ではブッポウソウの写真や記録音声、生態についてのクイズも交え、楽しく理解しやすい内容となった。参加者23名。

○成果 参加者主体の活動も取り入れ、里山と生物、人間との関係について知識と体験の両方から学ぶことが出来た。「また次回も参加して実際にブッポウソウを見たい」という声も多く聞くことが出来た。

平成29年12月10日(日)ウスイロヒヨウモンモドキ保護活動と自然観察

○概要 絶滅危惧種I種に指定されているウスイロヒヨウ

ウモンモドキの生態について専門家からの説明を受け、幼虫の餌となるカノコソウの生育を促す目的とした環境整備(下草刈り等)の見学を行った。参加者7名。

○成果 絶滅危惧種と里山の保全を結びつけることで活動の意義や保護活動の重要性、継続の難しさについて学ぶことが出来た。参加者からは、絶滅危惧種の生態について理解ができた。地元ならではの話を聞くことができた。地域の方々の努力によって安定した蝶の保護活動が継続できている、来年蝶をぜひ見てみたいなどの感想もあった。

■ この事業の成果と課題

【成果】SAVE JAPAN プロジェクトは、損保ジャパン日本興亜(株)、NPO 法人日本NPOセンター、NPO 法人岡山NPOセンターとの協働で実施しているが、今年度からSAVE JAPAN プロジェクトもフェーズ2となり、希少種生物の環境整備を持続的に行っていくことがテーマとされ、地域団体との協働も含めてその活動の一步が踏み出した内容であった。

【課題】地域団体の担当者の高齢化が課題である。次世代人材の育成の必要がある。またより広範囲に参加者を募り、プログラム内用の向上を図ることが課題である。

連携事業

高粱フオレストジャンボリー



高粱の森の中で一緒に親子でワイワイと楽しみながら、自然を感じ分かち合う

自然とのふれあいを通じ、きれいな空気、豊かで安全な水、食事などの自然資本の恵みの価値を再発見・確認の場を提供すると共に、日本人が大切にしてきた伝統的な自然観を育み、参加者自身が「社会の繋がり」「持続可能性」を意識できるようになることを期待している。

実施対象：主に高粱川流域（新見市・高粱市・総社市・倉敷市）の小学生以上

実施内容：8月10日 備中高梁フオレストジャンボリー

（参加者数 約80・100名）【環境教育事業】

地域諸団体協力方式によるワークショップ型体験イベントを実施。ジビエ料理、自然エネルギー学習、水辺の安全とカヌー体験、水力発電等のエネルギーWS、水生昆虫・おさかな観察WS、木工ワークショップを実施。8月10日・11日環境学習キャンプ（参加者数 20名）

【環境教育事業】

小学生およびその保護者を対象とした二泊二日のキャンプ。刃物・火を使った原体験活動として野外炊飯、薪割り体験、火おこし体験を実施。その他、昆虫観察、星空観察、ネイチャーゲームを実施。実施成果と課題：目標に対する成果は、下記の通りであった。

○参加者数：100名超

○参加者の環境意識向上：目標90%以上に対し、成果：100%

※備中高梁フオレストジャンボリー及び環境学習キャン

プ、キノコ観察会においては、自由解散形式のイベントであることと対象が低学年の学童も多いため、スタッフによる口頭インタビュ形式での調査。主に、自然観察系のワークショップにおいて「今まで以上に自然と仲良くなれた人？」のような趣旨の問いかけを行うなどして、参加者の意識の変化を確認した結果、100%の意識向上が見られた。

それぞれのイベント趣旨から考えた場合、環境学習系のイベントでの意識変化を期待していることから、本目標はクリアできたと考えられる。

今後の課題として、さらに多くの方々に参加してもらえよう、我々自身の活動アピールの強化を行い、魅力的な出展団体・プログラムの提供が





できるよう、努めたいと考えている。

参加者の声：

・野外体験活動は、限られたモノで工夫し、また、仲間と協力する大切さを実感しやすいことが子ども達なりに実感でき、とてもよかった。(環境学習キャンプ参加者より)

・こんな近くに、こんなに沢山の生き物があるなんて、今までできなかった！(フォレストジャンプリーお魚WS参加者より)

・生き物が沢山いるということは、それを餌にする別の動物がいるという、生物多様性について、気が付いた。自然環境を守るといことは、この生物多様性を維持し、それが我々人類にも非常に大切であるということが少しずつ分かってきた気がする(フォレストジャンプリー参加者(保護者))

■ この事業の成果と課題

【成果】昨年に続き2回目となる事業であったが、今回も地域団体等との連携が円滑に実施出来、更に深化したと感じた。参加者は約50名とやや少なめであったが、その分深く自然のことを学ぶ時間がとれた。

【課題】楽しさの中で見落とされてしまっているが、次年度は参加者や出店者へのアンケートを実施し、効果測定を確実にやっていく。高梁市や教育委員会との連携をもっと確立する。



連携事業

備中の食育



地域の新たな食文化の確立による 地域活性化を目的に

■ 高度な捕獲、解体、衛生管理技術をもつ猟師の育成
・現在岡山県では、捕獲に関しては猟友会に委託して、研修を行っているが、実際捕獲についても単にワナをつくるということだけでなく、イノシシの習性や森林の生態系が理解されていなければ捕獲には至らず、更に商品として流通させるためには、法律に適合するように適正な解体や保存に関する知識を必要とする。このような知識、スキルを習得する研修を猟友会と協働して、「備中ジビエ塾」を実施した。

■ 備中ジビエ需要拡大のためのプロモーション「備中ジビエコンテスト」の開催

・平成28年度は、倉敷市内の飲食店を中心に第1回「備中ジビエ料理コンテスト」を開催して、地域での認知をあげることが出来た。平成29年度は、高梁川流域情報ネットワーク(TINN)と共催して、地域メディアを通じて広くジビエを広めることを目的として、2次審査までを計画し、倉敷アイビースタジアム(フローラルコート)において、備中ジビエ料理コンテストの最終選考会を開催することとした。

■ 同時に奈良大学名誉教授高橋春成氏のイノシシと人間の共生をテーマとした講演とシンポジウムを実施し、食としてのジビエ活用と生態系の中で野生鳥獣を理解することの大切さも事業の中に組み入れることが出来た。

【成果・効果】

・平成28年度から2年連続で開催した「備中ジビエ料理コンテスト」は、備中11店舗、備前5店舗、美作1店舗の参加があり、コンテストを通じて、一般への販売を含めると、約1トンのシシ肉を流通することが出来た。1次審査で第1位となったトラットリア武野屋は、11月1日からの1カ月半で500杯以上のしし肉のみぞ

れ蕎麦を販売し、約50kgのシシ肉を消費した。その後の販売で、100kg以上のシシ肉を消費した。2位以下も平均15kg以上のシシ肉を消費している。

・参加店舗のジビエに対する意欲にバラツキはあるものの、総じて食材として魅力を感じている。今後シーズンに関わらずシシ肉を使用するという料理店も出てきており、ジビエの需要を喚起することが出来たと考えている。

・備中ジビエ料理コンテストの最終選考会の前に、実施した奈良大学名誉教授の高橋春成氏の「イノシシと人間」をテーマにした講演とシンポジウムは、ジビエを通して、都市部に生活する人の自然との共生について考えるきっかけとなった。

・最終選考会も新見市長にも臨席も頂き、約100





名を集め盛会に開催することが出来た。料理人同士の情報交換の場にもなり、次年度開催に向けての意欲も上がった。最優秀賞は、1次審査でも1位となったトラットリア武野屋が獲得した。

ジビエ塾は、初めての試みで対象者も猟師免許取得を目指す者から単にジビエ料理に関心がある方まで幅広い層を対象者とした。狩猟期に講座をしたことが失敗で、全3回の内全てに参加した方は1名という結果であった。しかしながら最終回では、講師が地域の後継者とする50代、60代の猟師仲間も参加を頂き、結果として、地域の猟師同士の交流を図ることが出来た。

・備中ジビエ料理コンテストの開催を通じて、知己を得て交流が出来た高梁川流域の信金のクラウドファンディングでは、シシ肉の供給を安定させるため、高機能の大型冷凍庫を設備することで資金集めをするという機会も得た。ジビエ普及を通して、様々な波及効果を生む結果となった。

■ この事業の成果と課題

- ・猟師長尾一三氏の後継者育成。そのためのシシ肉の流通を拡大すること。
- ・猟師グループや加工業者、流通販売業者、行政が協働した新見のシシ肉ジビエのブランド化を図る。新見市は千屋牛などA級グルメのまちをPRしているが、地域食材の中にジビエも加えて、食を通じた地域づくりに展開していく。
- ・高梁川流域の広域連携で新見産シシ肉ジビエを中心とした地域食材全体の流通を拡大することを目的とした協議会組織を設立することを検討していく。
- ・イノシシと人間の共生に関しては、今回最終選考会での講演講師として招へい高橋春成氏に継続的に指導を受け、イノシシの生態調査や科学的な手法によるイノシシと人の棲み分け、個体数の維持などを含めて、イノシシを生態系の中で理解することも継続する。
- ・高梁川トレイルなどの成果とも結びつけて、グリーンツーリズムやジビエツーリズムなどにも展開をさせる。



事業構想塾



実践的なノウハウを修得し、 目に見える成果につなげることを目指す

2040年の高梁川流域圏の持続可能な地域づくりを実現するために、流域の森里川海の自然資本、まちの社会資本などを活用した地域に根差した事業を構想し実践していく人材育成と環境づくりを目的として、事業構想大学院大学、高梁川流域の4信用金庫（吉備、玉島、水島、備北）との連携で「事業構想塾」を実施する。事業構想大学院大学から講師として青山忠晴氏を招き、実践的なノウハウとスキルを修得し、目に見える成果につなげることを目指す。

【事業の成果目標】

(1) 地域経営と地域協働の視点を持って、流域圏内の社会事業や地域プロジェクトの構想・実施・検証・見直しの手法を習得すること。

(2) 達成度が判定可能なソーシャルインパクトを創出する地に足をついた事業・ビジネスの創出・支援を行うための基礎的な能力を身に着けること。

【実施スケジュール】

- 第1回 10月19日(木)18:00～19:30
- 第2回 11月16日(木)18:00～19:30
- 第3回 12月14日(木)18:00～19:30
- 第4回 1月18日(木)18:00～19:30

【受講生・講師・事務局体制】

・受講生（公募による）※参加費無料
 ・担当教員 青山 忠晴氏（事業構想大学院大学・事業構想研究所 客員教授）

・授業コーディネーター 大社 充氏（事業構想大学院大学 客員教授）

【プログラムの内容】

○第1回 10月19日(木)18:00～19:30

【講師】青山 忠晴氏（事業構想大学院大学事業構想研究所・客員教授）

【講義】

- 1-1. 構想とはなにか
- 1-2. 事業とはなにか
- 1-3. 編集能力とはなにか
- 1-4. バックキャストイング
- 1-5. ケーススタディ「漢字うんこドリル」に学ぶ発想プロセス
- 1-6. 「お寺ステイ」に学ぶ事業構想プロセス
- 1-7. 地域事業構想のフロー
- 1-7. 「ビジネスモデルキャンパス(BMC)」とは

「地方創生」と「地域活性化」とは内容が異なる。地方創生には「地域の持続可能性」が求められる。地域の持続的な発展を実現するためには「新しい事業」を興すことが必要である。イ



「ペーショニング」という言葉が使われるが、それは今までにない新しいビジネスを生み出すことである。近年、日本の古くからある企業は元気がない。一方、新興企業として、ソフトバンクや楽天・サイバーエージェントといった「IT系事業が台頭してきているが、それら企業が、新しい雇用の受け皿になることが期待されている。これは地域においても同様ではないだろうか。ひとつのビジネスをつくるには自社と顧客だけでなく、金融機関や他企業など周辺の関係者にヒアリングして「インサイト」をみつけることが大切である。(インサイトとは「商いのツボ」。ここを押せば顧客が買ってくれるというポイント)インサイトの発見をデザインする。デザインは設計するものであるが、人間関係の設計もデザインといえる。人たらしの極意もインペーショニングのうちと捉え、すべて人間関係が基礎にあることを認識したい。どのツボをついたら人が動いてくれるのかを見極めることが、もつとも大切である。

○第2回 11月16日(木)18:00~19:30
 【講師】青山 忠靖氏(事業構想大学院大学 事業構想研究所・客員教授)
 【講義】

2.1. ビジネスモデルキャンパス(BMC)の作成方法
 2.2. ケーススタディ 兵庫県篠山市「合同会社・里山工房くもべ」
 2.3. BMCの解説
 ① 顧客グループの定義 (Customer Segmentation)
 ② 価値提案 (Value Proposition)
 ③ チャンネル(Channel)

④ 顧客との関係 (Customer Relationships)
 ⑤ 収益の流れ (Revenue Streams)
 ⑥ 主要な資源 (Key Resources)
 ⑦ 主要な活動 (Key Activities)
 ⑧ パートナー (Key Partners)
 ⑨ コスト構造 (Cost Structure)

廃校となった小学校をカフェとして再生させた「里山工房くもべ」(兵庫県篠山市)の創業時における事例研究からビジネスモデルキャンパスの作成方法を学んだ。「里山工房くもべ」は、事業構想を進めていくなかで、最初に考えたものは「工房」であったが、最終的にはそれとはまったく異なる「カフェレストラン」を商品として成立させることになった。その思考プロセスについて順を追って学んだ。

○第3回 12月14日(木)18:00~19:30
 【講師】青山 忠靖氏(事業構想大学院大学 事業構想研究所・客員教授)
 【講義】

3.1. フィールド調査
 3.2. ベルソナの導入
 3.3. 事例研究「コマダ珈琲の首都圏進出戦略と顧客創造」

事業を具体化するプロセスにおいてフィールド調査を行うことは大切である。実際に想定顧客にヒアリングを行い、自分が考えている商品やサービスについての意見を聞くことで構想を固めていく。そこで新たなアイデアを獲得することもある。「ベルソナ」とは、想定顧客の具体的な姿のことで、年齢や職業、年収や家族構成・居住地・居住環境・趣味など、その人物のあらゆる要素を列記して、その人物や生活を

絵に描けるまで明確化することである。「コマダ珈琲」(本社名古屋)をケーススタディとした。

○第4回 1月18日(木)18:00~19:30
 【講師】青山 忠靖氏(事業構想大学院大学 事業構想研究所客員教授)
 【講義】

「ビジネスモデルキャンパスを使つての事業構想プレゼンテーション」
 【事業構想のタイトル】
 ・「滞在型環境学習プログラムを通じた持続可能な地域づくり事業」
 ・「備中神楽定期公演・外国人観光客誘致構想」
 ・「県民共通ポイントを活用した県民回遊性の創出と地域創生」
 ・「子どもの学びを支えるチームみずしま、水島エコクルーズ体験」
 ・「滞在時間延長のための観光案内」
 ・「倉敷和装聖地化プロジェクト」
 ・「大橋家住宅」
 ・「高校生を対象としたプログラミングやドローン教室」

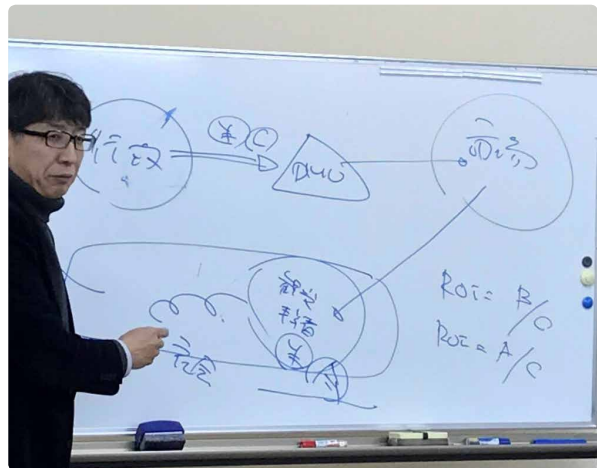
【受講生の感想】
 (良かった点)
 ・講師から直接教えて頂いて、質問もすぐにできる形式が良かった
 ・受講生のプレゼンテーションに対して、先生方の確かなコメントやアドバイスが貴重であった。
 ・参加しやすい日時の設定と会場。
 ・受講生のモチベーションと多様性が刺激になった。
 ・自社の事業を見直すきっかけになった。
 (改善してほしい点)
 ・個人の事業計画に対して、個別にじっくり話を聞いて行動レベルのアドバイスがほしい

■ この事業の成果と課題

【成果】当校にとって、流域の自然・社会資本を活用したなりわいを興していく初めての試みであったが、事業構想大学院大学との連携によって、少人数であったが事業構想をまとめることまでを実現することができた。

【課題】

今年度は、民間事業者が中心であったが、より地域における公共性の高い事業開発を促進させるためには、自治体の抱える第3セクターを主体とした新規事業開発に取り組むことも効果的と思われる。高梁川流域の各市町村の第3セクターが連携して新規事業開発に取り組み、それを地域の金融機関と行政が支援するといった体制を検討することも地域活性化に不可欠と思われる。



協力事業

備中no町家deクラス



江戸・明治・大正・昭和から平成の現代に伝わる 地域の伝統的な生活文化の魅力を五感で体感

備中の町並みに残る、文化財クラスの建築物や、「蔵・倉」、「商家」、今も暮らしの残る小さな「町家」の空間で、江戸・明治・大正・昭和から平成の現代に伝わる地域の伝統的な生活文化の魅力を五感で体感していただきたいとの思いで、「町家でクラス、懐かしい未来」を合言葉に「備中no町家deクラス」2017を開催した。

【開催地区とプログラム】

開催地区は倉敷／美観地区及び周辺地区・玉島・児島・茶屋町、浅口市／鴨方・金光、高梁市／本町・吹屋、新見市、総社市、矢掛町、早島町、笠岡市で34のプログラムを開催した。

■総参加者は1060名。(資料①)プログラム参加者等実績)
内訳はプログラム参加者が769名、スタッフ291名(延べ人数)。尚、パンフレット印刷時にカーボンオフセットを付加することで、環境配慮と共に、わずかながらではあるが東日本大震災の被災地支援を行った。

■主催：備中町並みネットワーク
■共催：岡山県備中県民局
■企画・運営：備中町並みネットワーク構成団体(順不同)
倉敷伝建地区をまもり育てる会、かもがた町家管理組合・NPO法人総社商店街筋の古民家を活用する会、吹屋町並保存会、備中矢掛宿の街並みをよくする会、新見御殿町・大谷地区元気いっばいまちづくり協議会・NPO法人倉敷町家トラスト

一般社団法人岡山県建築士会
岡山県備中県民局・倉敷市・高梁市・浅口市教育委員会・矢掛町・総社市・新見市

■協力：高梁川流域学校・浅口市地域おこし協力隊・笠岡市地域おこし協力隊

■備中町家クラス実施事務局
事務局：倉敷市東町1-2-1 NPO法人倉敷町家トラスト

■運営団体(順不同)

大谷地区元気いっばいまちづくり協議会 NPO法人倉敷町家トラスト・笠岡市地域おこし協力隊 かもがた町家管理組合・吹屋町並保存会・本町活性化委員会・NPO法人総社商店街筋の古民家を活用する会・備中矢掛宿の街並みをよくする会・新見御殿町・倉敷友の会・倉敷市文化財保護課・倉敷伝建地区をまもり育てる会・倉敷物語館・素気工房・大橋家住宅つくば片山家プロジェクト・いかしの舎・倉敷芸術科学大学芸術学部まちなか研究室東町二般社団法人岡山県建築士会

■ この事業の成果と課題

2016年から備中町並みネットワークが主催し、企画運営を進めた。備中町並みネットワークが開催する毎月定例の会議や、町並み見学、勉強会、年に一度の備中町並みゼミで育まれた交流と連携の成果として、今年も新しいプログラムも加えた。全体のプログラム数は34と昨年に比べ少なくなったが充実した内容となった。
今年度も備中県民局との共催事業となり、資金面での支援と広報、コーディネートで充実したプログラムとして実施できた。開催も4回目になりリピーターも増え、多くのプログラムで定員、もしくはそれに近い参加があった。人気のプログラムは県外からの参加者もあった。

高梁川の環境保全



森を健全化することは、 川や海を豊かにして自然循環を維持すること

11月19日フォレスターの日(参加者数 12名)【森林整備と森の利活用事業】

森林保全に関する諸手続き及び森林計画についての研修会及び、チェーンソーを使った間伐の実践。

12月16日フォレスターの日(参加者数 6名)【森林整備と森の利活用事業】

間伐及び間伐材を使った椅子づくりの実践。家具職人から実用的な椅子づくりを学んだ。

1月12日 フォレスターの日(参加者数 6名)【森林整備と森の利活用事業】

間伐及び間伐材を使った炭焼きの実践。伝統的な炭窯による炭焼き方を学んだ。

2月17日 フォレスターの日(参加者数 6名)【森林整備と森の利活用事業】

キノコ林としてのマツ林整備及び、林地残材の搬出の実践。チェーンソー等のメンテナンス実践を行った。

3月3日 ロープウィンチを活用した林地残材搬出研修(参加者数 12名)【技術研修】

素人でも比較的的安全に林地残材の搬出が可能となる、ロープウィンチの安全使用についての研修及び現場で必要なロープワークについての研修を実施した。

※上記事業に関連し、3月10日・11日の2日間、チェーンソー講習「伐木等の業務に係る特別教育(大径木)」(※労働安全衛生規則第36条8号に掲げる業務特別教育)を開催。参加者20名。

実施成果：

森林整備：目標1ヘクタールに対し、成果：約0.5ヘ

クタール

各回の参加者数が少なかったこと及び、例年以上に厳しい寒さ(凍結・雪)により作業が困難であったことから安全確保を最優先とした結果、目標を達成することはできなかった。実整備面積は、0.5ヘクタールと、目標達成率は50%となった。

成果物

・間伐材を使った椅子 5脚
・木炭 約100kg ※見込み。3Lより炭窯に火入れを行う。

■ この事業の成果と課題

参加者の意識向上を図ることについては、ある一定の手ごたえを感じているが、その一歩先である「実際に行動をおこす」段階へのステップアップが非常に難しく、森林整備作業への参加者が伸び悩んだ結果となった。今後、如何に行動できる人材を増やすか、について検討・改善していく必要があり、特に兼業スタイルの自伐林家支援のためのシステムづくりの検討を行う計画である。

これについては、「岡山のエネルギーの未来のエネルギーを考える会高梁美しい」との連携により、未利用バイオマスエネルギーの有効活用法についても検討しており、これを一つのモデルとして地域の森づくり活動を活性化させたいと考えている。

主催事業

水島コンビナートの進化



水島コンビナートについて理解を深め、最新技術や歴史を学び、未来社会について課題を共有

水島コンビナート建設の歴史からコンビナート企業間の連携、技術開発まで、岡山県の経済基盤を支えるコンビナートに関する幅広い情報提供を、コンビナート企業OBの会「語りくべの会」を講師に迎えて実施するプログラム。

「座学プログラム」では、水島コンビナートの誕生の歴史を辿りながら、東西9km、南北6kmという広大なエリアに建設された製油所、製鉄所、自動車、化学、食品工場など、主要企業を紹介すると共に、海外との競争力とコンビナートネットワーク（競争力強化策）、最新の環境・安全技術、LNG、海底トンネル、石油製品のできるまで、など、興味深い個別テーマについても解説が行われる。

一方、「座学プログラム」と並行して、或いは単独で行われる「クルーズ」プログラムは、100数十mを超える高層煙突、東京タワーに匹敵する長さの巨大船、石油の巨大タンク群、造船所の巨大クレーンなど、普段目にする事の無い光景を眼前に経験できる迫力満点のもので、そのスケールには圧倒される。この「クルーズ」プログラムには、「昼」の部と「夜」の部があり、双方共に、人気を博している。

上記「コンビナートクルーズ」プログラムの導入（H28年度）によって、水島地域環境再生財団、福田・水島公民館、倉敷市役所、JT B、古城池高校などとの協働実施の機会が増えたことにより、平成29年度の参加者は、100名を超える勢いとなっている。

■ この事業の成果と課題

【成果】水島コンビナートを学ぶプログラムは、様々な団体が実施しているが、コンビナート企業OBが関わるプログラムは当法人が初めてであり、JT Bなどもこの点に価値において観光商品として共同開発することとなった。

【課題】水島観光にはバスや船を利用することになりコストがかかるため、商品した場合の料金設定が課題。JT Bともこの点に留意して、商品の卸し価格を協議する。コンビナート企業OBの確保も課題。



こども造形ひろば



造形活動を楽しみながら
感性を豊かにし “生きる力”をはぐくもう

「こども造形ひろば」は、そうじやぼつけえ造形の会が、公益財団法人総社市文化振興財団の事業に採択され、今年度で2回目の開催となる。

【内容】

開催日：5月～9月(全7回講座と展覧会)

会場：常盤小学校 多目的室・図工室

対象：小学校2・3年生

参加者：30名

受講料：5000円(全講座分)

講師：布下満(洋画家) 大平和朗(洋画家) 角田みどり(中国短期大学教授) 平田敦司(彫刻家) 金池兼広(ものづくり作家) 平田勉(小学校教諭) 柏原寛(中国学園大学准教授)

また、平成28年度こども造形ひろば参加者の受け皿として、雪舟窯にて焼き物づくり講座(講師：大嶋肇)も開催。参加者：10名

■ この事業の成果と課題

【成果】平成29年度こども造形ひろばの募集人数25名に対し、30名の申し込みがあり、30名全員を受け入れ講座に参加した。道具の使い方・素材の生かし方・工夫(想像力)の奥深さ・完成の充足感と次への意欲を体験し学ぶ。また、費用対効果では図れない、想像力や創造力を育み、作品を完成させた充足感自分の自信を持つきっかけとなり、展覧会ではそれを家族と共有する機会となった。

【課題】地元アーティストなど新たな講師の確保と、こども造形ひろば卒業後の活動の場の確保が必要である。今後、より多くの方にこの活動を知ってもらい、協力や連携の呼びかけをしていきたい。また、こどもたちに、地元美術館や作品展など、本物に触れ、体感する機会をつくりたい。



協力事業

環境保全型森林ボランティア活動



里山の保全と森林資本の活用に真摯に取り組み、 地域に根差した活動を継続・展開

岡山県新見市の森林状況は、森林面積19,321ha（林野率約87%）で、そのうち民有林は5,929ha、その大部分はスギ・ヒノキである。近年、木材材価の低迷、林業従事者の減少・高齢化等により、森林事業は年々困難となりつつあり、間伐等の保育作業を緊急に必要とする人工林が増加している。

環境保全型森林ボランティア活動は、平成18年度から新見市神郷の森林をフィールドとして、人工林の保育作業（間伐等）と木材の利用などの活動を通じて、森林のもつ公益的機能の大切さを学ぶ体験型のプログラムである。平成21年度から26年度まで、早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンターの主催事業として、全国から毎年3月と9月に公募で全国から大学生や環境系の専門学校などを募り、約2週間共同生活をしながら、森林間伐作業を行い、その中で「林業」産業全体の循環サイクルを学ぶことによつて、一般社会でも必要とされる課題発見能力・課題解決能力を身に付けることを目的とした人材育成事業としてスタートした。平成27年度からは、一般社団法人杜守が主催し、林野庁、岡山県備中県民局、新見市、岡山大学地域総合研究センター、地域団体と協働で、里山の保全と森林資本の活用に真摯に取り組む、地域に根差した活動を継続・展開している。

活動の内容は、以下の1～3の通りである。

1. 安全教育
 - ・安全面には特段に考慮し、活動初日のオリエンテーションでは、講師の方の指導のもとチェーンソーの使い方や伐倒の基本などを、座学と実践を交えて学習する機会を設ける。
 - ・連日の作業となるため健康面の配慮を細かく行い、フォレストの判断で活動時間短縮や、休日に変更するなど臨機応変に対応する。
 - ・雨天時は足場不良など安全を妨げる可能性を考慮して、木材市場見学を行うなど、林業を総合的に学習できるように配慮する。
2. 指導方法
 - 現場では、3人～4人を1班とした班別作業を行い、フォレストが全員に目を行き届くような体制を取る。

3. 事故発生時の対応方法

事故発生を未然に防ぐことを一番に考え活動を行うが、万が一の事故発生時にはフォレストが当事者の応急処置を行い、その間他の班員が救急車の手配を行うなど、迅速な措置を行う。山林での作業となるため、近隣の消防署には前もって活動場所の共有を行い、万が一に備えたルートなどの共有を事前に行っておく。

- 協働の枠組み
- 共催：新見市森林組合
- 後援：新見市農林課林業振興係
- 現場指導や安全講習：備中県民局地域森林課
- 研修：近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
- 製材所見学：有限会社安田ウッド
- 木材市見学：岡山県森林組合連合会新見支所
- 地域交流：神郷北小学校
- 宿舍提供：神郷温泉
- 参加者募集・告知等：岡山大学地域総合研究センター
- 作業場所提供：地域森林保有者の方々



連携事業

2017 高校生による海・山で暮らす匠への「聞き書き」
 〈海と山をつなぐ〉



海と山の関係と、その保全についての理解の深化と発信
 海と共生できる人材の育成、アクティブラーニングの実施

2017 高校生による海・山で暮らす匠への「聞き書き」は、岡山県立笠岡工業高等学校(主幹高校)、岡山県立矢掛高等学校、岡山市立後楽館高等学校、岡山県立真庭高等学校落合校地(協力高校)の4校が申請し採択された、平成29年度海洋教育パイオニアスクールプログラム事業の助成を受け実施。

【実施内容】

5月参加者公募

6月「聞き書き」研修会&「森聞き」上映会

講師：澁澤寿一氏(NPO法人共存の森ネットワーク理事長)

ワークショップ：前田芳男氏(岡山大学教授)

会場：岡山大学医学部Jホール

笠岡工業高校、矢掛高校、倉敷中央高校、岡山後楽館高校、津山高校、真庭高校、岡山大学、大学生有志、一般参加など約80名が参加

7月宿泊研修会(白石島)&インタビュー(笠岡諸島)

講師：澁澤寿一氏(海と山をつなぐ)

前田芳男氏(振り返りワークショップ)

原田茂氏(白石島在住 海ごみについて)

参加者：61名

7月～8月真庭高校(真庭地区)インタビュー

8月～10月書き起こし

11月真庭市バイオマスツアー(津黒ふれあいの里)&文章構成研修会(真庭高校落合校地)

研修会講師：室貴由輝氏(岡山後楽館高校教頭)

参加者：37名

12月「聞き書き」作品作成

12月フォーラム開催(笠岡市民会館にて)

振り返りワークショップ講師：前田芳男氏

トークセッションゲスト：澁澤寿一氏

聞き手：前田芳男氏、室貴由輝氏

参加者：88名

1月～3月成果物 作品冊子作成

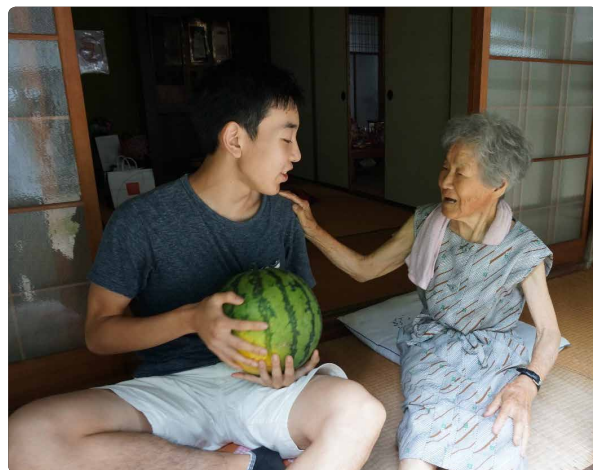
この事業の成果と課題

【効果】

今年度8回目となる事業であったが、今までは「聞き書き」実行委員会が申請した助成事業として実施してきたが、今年度は4校自らが、主体的に申請した助成事業として実施するという一歩進んだ活動へと進化した。また、参加校は岡山県全域へと拡がり、来年度新たに参加する高校も、学校と地域の連携による人材育成が認められつつあると確信した。

【課題】

活動資金の調達と人材育成が課題であるが、来年度からは、水島コンビナートをはじめ、企業や経済同友会との連携、また参加校との連携を深め、経済的自立を目指す。また、O・B・O・Gによる活動(「結」)が今年度よりスタートし、今後楽しみである。



語り～部会

代表者住所：〒700-804 岡山市北区中井町1-5-16
 電話：090-3365-9419
 E-mail：nadia.furukawaakira@gmail.com
 代表者：古川 明
 所属員：2名（藤原 哲男、斉藤 豊）
 年会費：なし
 設立：平成27（西暦2015）年2月

団体発足の経緯

水島で生まれ、水島コンビナート企業で働いた経験のある代表が、地元の人たちにコンビナートのことを知って貰いたいという思いに駆られるようになった頃、水島環境再生財団（公益財団法人）主催のコンビナート研修講師役に誘われ、コンビナート観光のガイド役や解説者を務めるようになったことが活動の原点。

その後、高梁川流域学校（一般社団法人）の発足に伴い、水島コンビナートに関連する内容を、流域学校のプログラムに加えることが契機となって、現在に至る。

会は、コンビナート企業OB2名と現役1名が加わり、計4名で開催した「コンビナート研修会」に端を発するが、現役1名が他府県へ転出したことにより、現在は3名で活動中。



●1960年代の水島コンビナート

主な活動

- 1: コンビナート研修 【座学：水島環境学習センター】
 - ・水島コンビナートの歴史と現状
 - ・コンビナートレクサス
 - ・LNGの話
 - ・製油製品のできるまで
- 2: コンビナートツアー
 - ・バスツアー
 - ・クルーズ 【水島港内を周回しながら、工場群を見学（夜・昼）】
- 3: 教材
 - ・コンビナート建設時の歴史的写真
 - ・クルーズマップ&主要企業紹介
 - ・水島港の今むかし合成図 【1947年 & 2014年】

団体発足の経緯

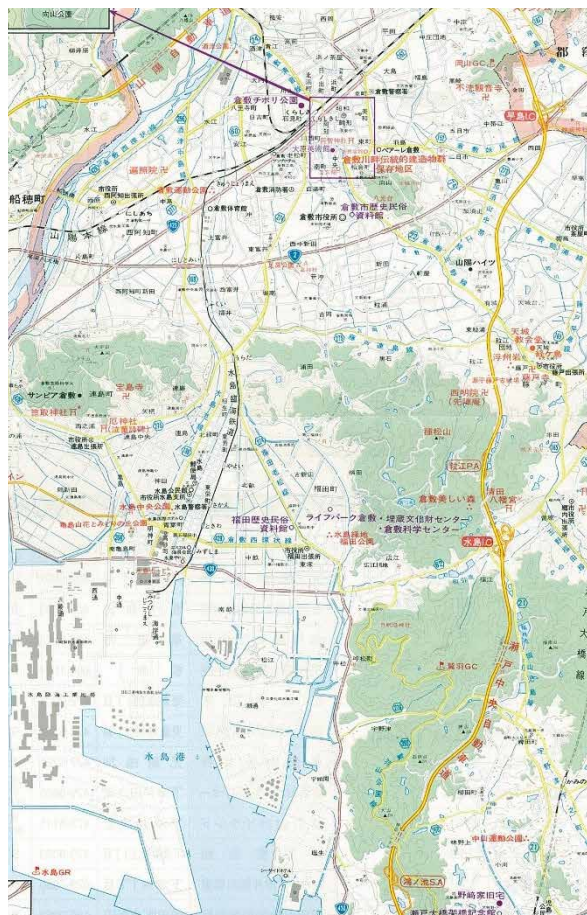
県や倉敷市の屋台骨を支える水島コンビナートの歴史と、存在の意義、包含する課題、最新技術などを広く世の中に伝えていくこと



●水島コンビナートの夜景

これからの課題など

- 1: 会員全てが石油会社出身であることから、その他コンビナート企業からも人的・財政的協力を得て、講師陣の充実、後継者の育成を図りながら持続可能な体制づくりを目指すこと
- 2: 安定的運営を図る目的で、これまでの一般研修に加え、行政や学校法人などを対象に定型プログラム化し財政面での自立を図っていくこと



●コンビナートツアー・ガイドマップ

NPO 法人 フォレストフォーピープル岡山

団体住所：〒700-0038岡山県高梁市落合町阿部866-2 クラフルハウス2F
 電話：0866-56-3550
 E-mail：info@ffp-okayama.org
 URL：http://ffp-okayama.org
 理事会：理事11名（理事長 山下 武伺）
 会員数：正会員67名、内正会員42名
 年会費：正会員5,000円、賛助会員3,000円
 設立：平成18(2006)年3月

団体発足の経緯

国土の約7割にも及ぶ森林はその一部を里山として、長く我々の生活と共にあったが、昭和30年代以降、農林家の高齢化と過疎による維持管理の停滞、長期にわたる木材価格の低迷等により放置されはじめた。その結果、森林の持つ公益的機能の低下が危惧され、また、先人がこれまで培ってきた里山文化も失われはじめた。

このような森林(里山)を取り巻く諸問題に対し、森林資源の復活・保全、里山文化の継承、里山林の生物多様性を活かした青少年環境教育に積極的に貢献していくことを目的に平成7年に「高梁地域美しい森づくりの会」を設立、岡山県と協働で森づくり活動をスタートした。その後、自立した運営体制を整えるため、平成18年にNPO法人として活動を開始。

団体の目的

人・自然・社会の関係性を大切に考え、それらをつなぐ人づくりを推進している。青少年を対象とした地域の伝統的な生活文化や豊かな自然を活かした体験的な学びや環境教育を通して、健全な人づくり、里山文化の継承、自然環境の保全を推進し、持続的に発展する社会の実現に努めている。

主な活動

- 2006 :NPO 法人ふれあいの里・高梁 設立
- 2006 ~:行政との協働事業「緑と水の森林基金」「県民参加の森づくり事業」「おかやま共生の森事業」「おかやま森づくり県民基金事業」「高梁のマツ林・マツタケ再生事業」「里山ふれあいの森活動支援事業」「里山再生協働事業」「企業との協働による森づくり事業」に取り組む
- 2011 :法人名をNPO 法人フォレストフォーピープル岡山に改称
高梁美しい森を活動拠点に、森林・林業体験イベントの開催、自然観察会の開催、林産の加工、企業による森林・林業研修の受け入れ、学校教育との連携による森林環境教育等の実施に努めている。
- 2014 :第27回森林レクリエーション地域美化活動コンクール 協会会長賞(公益社団法人日本レクリエーション協会)
- 2014 :平成26年度生き活き岡山推進賞(岡山県)
- 2016 :ソロフチミスト日本財団 社会ボランティア賞(公益財団法人日本ソロフチミスト日本財団)
- 2017 :企業CSR活動支援に新たに三菱ケミカル株式会社が加わ

り、JXTG エネルギー、タカナシ乳業、オムロン岡山工場と併せて4社となる。

2017 年度活動報告

日本人が大切にしてきた伝統的な自然観を育むことを目的に下記事業を実施した。

8月 備中高梁フォレストジャンボリー

参加者数 80 ~ 100 名【環境教育事業】

ジビエ料理、自然エネルギー学習、水辺の安全とカヌー体験、水力発電等のエネルギーWS、水生昆虫・おさかな観察WS、木工ワークショップを実施



環境学習キャンプ(一泊二日)

参加者数 20 名【環境教育事業】

小学生およびその保護者を対象とした一泊二日のキャンプ。刃物・火を使った原体験活動として野外炊飯、薪割り体験、火おこし体験、昆虫観察、星空観察、ネイチャーゲームを実施。

11月~2月 フォレスターの日(毎月1回)

参加者数 約30名【森林整備と森の利活用事業】

森林保全に関する諸手続き及び森林計画についての研修会及び、チェーンソーを使った間伐の実践。

また、間伐材を使った炭焼きの実践や、家具職人を講師に迎えた間伐材を使った椅子づくりなどを実践。



これらを通じ、特に若年層への高等アンケートにより、自然との関わり合いについてはっきりと意識向上が認められた。また、森林整備については、目標1ヘクタールに対し、0.5ヘクタールと、達成率50%となった。これは、寒波等に伴う大雪等の影響によるもので安全確保を最優先に考えた結果であり、やむを得ない結果である。

事業における課題

参加者の意識向上を図ることについては、ある一定の手ごたえを感じているが、その一歩先である「実際に行動をおこす」段階へのステップアップが非常に難しく、実践の場である『フォレスターの日』への参加者が伸び悩んだ結果となった。今後は兼業スタイルの自伐林家支援のためのシステムづくりの試行を行う。

TIN 高梁川流域情報ネットワーク

代表者住所：〒710-0803倉敷市中島2661-1
 (倉敷ケーブルテレビ内)
 電話：086-466-1717(倉敷ケーブルテレビ内)
 E-mail：sakamoto@kct.co.jp
 構成団体：高梁川流域コミュニティ・メディア8社
 及び役員 会長 坂本 万明(倉敷ケーブルテレビ顧問)
 副会長 2名 幹事1名
 設立：平成27年3月3日(西暦2015年)



設立趣旨

当会は地方創生で掲げる中枢拠点都市圏構想を情報ネットワークの側面から支援するものとして、流域の歴史文化、産業、流域住民への情報伝達を行うと共に情報の共有化を図り、情報発信を行う事としています。当会は流域の「多様性の共生による自立」を理念に地域の記録係として歴史を刻み、豊かな自然の中で子育てや生活が出来る地域社会を実現することを使命としています。実施計画は以下の通りとなっています。

- ・流域を網羅した各種情報収集及びコンテンツの制作
- ・制作したコンテンツのアーカイブ化とクラウドの構築
- ・各種プラットフォーム(NET)へ載せて情報発信を行う
- ・流域内の通信環境を整備して、ブロードバンドを提供

TIN 事業活動I

■ 2015 年度

- ①高梁川流域デジタルアーカイブス(倉敷市委託事業)
動画制作(5分×20本)
- ②「山田方谷」コンテンツ(動画)制作
(山田方谷の軌跡実行委員会)

■ 2016 年度

- ①高梁川流域デジタルアーカイブス(倉敷市委託事業)
動画制作(5本×20本)
- ②「高梁川流域の企業人」(倉敷市委託事業)
動画制作

■ その他パイロット事業

- ①講演「備中志塾～備中の伝統文化の継承・発展」(全5回)
- ②「備中ジビエコンテスト」(主催:高梁川流域学校・制作:倉敷ケーブルテレビ)

WEB 動画制作(2分×11本)

■ 2017 年度

- ①高梁川流域デジタルアーカイブ(倉敷市委託事業)
動画制作(5分×20本)
- ②「備中ジビエコンテスト」
(主催:高梁川流域学校・制作:倉敷ケーブルテレビ)

WEB 動画制作(2分×17本)

今回は倉敷市・岡山市・真庭市・新見市と岡山県下を対象とした猪肉のロース肉、モモ肉等及び鹿肉のジビエを和食・フレンチ・イタリアン・ドイツでこだわりの料理を提供

③高梁川流域百選(山陽新聞社協働企画)

山陽新聞毎週朝刊連載

動画制作(2017年4月～2018年3月)

5分～10分×33本)2018年4月以降も継続

4K及びドローン撮影編集

TIN 事業活動II

高梁川流域 Free-WiFi 整備

当会構成各社は流域自治体から委託され同一スペック(TIN構成のケーブルテレビ NET-AP・認証サーバー共有)にて構築すると共にメンテナンスを行っています。NTT-BPが提供する専用アプリ「Japan Connected-Free WiFi」で一度認証したら全国の主要な駅や空港、観光施設などで簡単にWiFiを使用することができ、高梁川流域 Free-WiFiにおいてもスムーズに繋がります。

■ 2015 年度

- ①倉敷市を起点に笠岡市・高梁市
高梁川流域の観光スポット・ゾーン対象に整備

■ 2016 年度

- ①倉敷市児島地区(鷺羽山他)・井原市・矢掛町・総社市
各観光スポット・ゾーン対象に整備

■ 2017 年度

- ①倉敷市玉島・倉敷市中心市街地美観地区周辺・浅口市
観光スポット・ゾーンはもとより観光客の動態エリアへの拡大



NPO 法人倉敷町家トラスト

団体住所：〒710-0053 岡山県倉敷市東町1-21
 電話：080-5232-6462
 E-mail：info@kurashiki-machiya-trust.jp
 URL：http://kurashiki-machiya-trust.jp
 理事会：理事12名（代表理事・中村 泰典）毎月1回
 会員数：会員276名、内正会員55名
 年会費：正会員5000円、賛助・準会員2000円
 設立：平成18（2006）年5月（10月NPO法人認証）

団体発足の経緯

昭和24年に民間団体「倉敷都市美協会」が設立され、戦後の倉敷の景観保全運動が倉敷川畔からはじまる。市は「倉敷市伝統美観保存条例」を制定し、昭和54年に「重要伝統的建造物群保存地区」（13.5ha その後平成10年に15haに拡大）として国の選定を受ける。平成2年には全国にさがかけて背景保全条例を制定したが、住民団体の活動は消極的になり個人の保全に任せていた。平成18年、目立ち始めた空き家の改修と利活用を進めるためNPO法人として団体を設立した。

団体発足の目的

倉敷川畔重要伝統的建造物群保存地区及び周辺の未利用町家の再生・利活用を目的に、町家調査研究・町家生活体験・滞在・定住促進・地域活動、地域文化の継承を進めている。

活動

- 2006:倉敷町家トラスト設立
- 2006:内閣府より平成18年度全国都市再生モデル調査事業・NPO法人認証・登録、町家調査開始
- 2007:町家再生第一号「御坂の家」竣工、倉敷市旧街道ファサード整備調査事業
- 2008～10:良好な景観、まちなみ形成モデルスタディ業務(国土交通省)
- 2010:都市景観大賞「美しいまちなみ大賞」受賞団体
- 2011:第一回地域再生大賞「準大賞」受賞、「DONATIONくらしき」（岡山県「新しい公共の場づくり」事業）
- 2012:岡山県三木記念賞助成金団体選定、「Kurashikimaps プロジェクト」（トヨタ財団助成事業）
- 2013:全国町並みゼミ倉敷大会開催(参加)
- 2013:日本ユネスコ協会連盟「プロジェクト未来遺産」選定登録
- 2014:備中町並みネットワーク設立参加、備中町並みゼミ開催（～以降毎年開催参加:5市1町）
- 2014:備中 no 町家 de クラス開催（～以降毎年開催参加）倉敷えびす商店街「歴史を生かした誘客事業」（経済産業省）
- 2015:中心市街地町家調査(倉敷市)
- 2016:宮坂町の家プロジェクト
- 2016:福武文化奨励賞受賞

・「まちにあかりを灯す」がキーワード!

- (1) 来訪者があかりを灯す（滞在・交流）
 - (2) 暮らしのあかりを灯す（定住）
 - (3) 商店・事業所があかりを灯す（経済活動）
 - (4) 門灯・看板のあかりを灯す（新しい公共空間）
 - (5) 伝統行事であかりを灯す（文化継承）
 - (6) イベントであかりを灯す（賑わい・交流）
 - (7) エコなあかりを灯す（環境配慮）
 - (8) 祈りの明かりを灯す（東日本支援事業）
- ・くらしき手帖の発行（年一冊）

保存整備・利活用の状況

町家生活体験・滞在施設1軒、商業施設3軒、住居兼店舗2軒、住居専用4軒、交流拠点2軒、仲介1件、塀の修景1件の計14件。平成28年初めて町家を購入して改修を進めている（宮坂町の家）。



●（改修した倉敷町家トラスト事務所：交流拠点として活用）

課題

伝建地区の建造物保全は条例規制と補助金で効果は上がっているが、隣接地区では建築物の様式や素材の統一感はなく、プレハブ建築物やビルなどが建ち並び、空き地は駐車場になり、中高層のマンションも多く建ち、景観は無秩序な様相を呈している。伝建地区では南海・東南海地震時の減災に向けて、町家の耐震診断等の対策が必要であるが、費用が掛かるため、十分進んでいない。

平成18年8月、倉敷伝建地区に住民組織「倉敷伝建地区をまもり育てる会」ができ、他の市民団体も活動が活発になってきた。中心市街地活性化と町家の利活用において官民ともに活動を進めた結果、押し寄せる来訪者に対して、交通諸問題と伝建地区が観光商業モール化していくことに対して地元住民の不安が高まっている。

また、倉敷中心市街地では都市の機能及びコミュニティの再生・再編が求められており、仕組みの構築、実践が急がれる。

備中地域の町並み・町家の保存活用にも目が向けられ、活動支援の期待が高くなっている。

4. 地域支援 (社会福祉協議会、地元有志との協働)



(母子引き籠りの低減、四世代交流、地域子育て資源の発掘)



(コミュニティ食堂の立ち上げ支援)

5. 情報発信 (倉敷市委託)



倉敷まちづくりびと展 (小さな団体の情報発信力向上)

6. 表現活動支援



ミュージカル・ハンスの冒険

7. 幼児向け防災教育 (企業などの協働)



防災体験プログラム (2017年1月現在 60カ所2600人以上)

8. 環境学習 (倉敷市委託など)



夏休み・宿題応援団



近くの森の学校 (高梁川流域学校初等部)・あちのもり分校

一般社団法人チカク

団体住所：〒710-1101 倉敷市茶屋町353-42
 電話：080-2900-8110
 Fax：050-3488-4116
 E-mail：ekinotikaku@gmail.com
 URL：www.ekinotikaku.com
 職員数：14名(うち常勤2名) 理事3名・監事2名
 代表者：代表理事 赤木美子
 設立：平成20(西暦2008)年12月

団体発足の経緯

当法人は、倉敷駅前にあった倉敷チボリ公園の公益性の一部を継承するために、閉園直前の2008年12月26日、チボリで働く女性スタッフを中心に設立されました。

発足当初の目的として、こどもの健全育成と、市民の生きがいの創出を図って市街地の活性化に寄与することを掲げ、こどもおよび一般市民に対する「ものづくり」、「本物体験」や「コミュニケーション能力の向上」、ならびに「中心市街地の活性化」と「環境の保全」のための事業と、その事業に関連する事業および情報提供を行う、としています。

設立から一貫して、社会の中の大小さまざまな矛盾や不具合を批判、論評するだけでなく、当事者として身近な課題に取り組んでいきたいと私たちは考え、行動してきました。目指しているのは、乳幼児から10歳ぐらいまでのこどもとその親を含む、小さな「コミュニティ」を、さまざまな形で町なかに作り続けること。そこで、活動を通じて、自然災害が多い日本で未来を生きるこどもたちのために、「当事者意識」を持って取り組む「姿勢」の大切さを伝えていきたいと思っています。

チボリで、私たちは町なかの森を育てていました。そしていま森を育てるように人を育てる「志」をもって、事業を続けていこうと思っています。



チカクの主な活動 2017-2018

1. 就園前の子どものための預かり保育事業



ようちえんごっこプチぱれっと(2~4歳児のプレ幼稚園)

2. 地域子育て支援拠点事業(倉敷市委託、常設)



ちややっひろば・チカク(0-3歳児と保護者の居場所)

3. 地域支援事業(地域の子育て支援団体との協働)



わらべうた(愛着関係と感覚統合の視点を持つ支援者の養成)



アラ40ママの子育てひろば(40代ママの育児不安解消、ピアサポート)

一般社団法人倉敷未来機構

団体住所：〒710-0053倉敷市東町1-21倉敷町家トラスト事務所内
 電話：080-4629-6624
 E-mail：nadia.furukawaakira@gmail.com
 理事(役員)：4名(代表者 坂ノ上 博史)
 設立：2012年4月

概要・実績

倉敷市における、協同プロジェクトの創出を目的として、2012年4月に設立。

「made in KOJIMA」せいのまち再生計画策定事業(倉敷市委託事業/2014年度)、備中邦楽調査事業(備中県民局協働事業/2014年度)などプロジェクトの立ち上げ、運営を行うとともに、一般企業の従業員研修や「倉敷市職員研修所 コミュニケーション&モチベーション研修」などを担当する。

地域の中間支援・コンサルティング事業は、一般社団法人高梁川プレゼンターレを新たに設立し、事業を移管する。和楽器によるまちづくり関連事業は、備中邦楽の里プロジェクト実行委員会を新たに設立し、事業を移管する。



高校生・大学生などボランティアの活躍できるプロジェクトを創出

一般社団法人高梁川プレゼンターレ 概要・実績

高梁川流域における中間支援及びコンサルティング業務を行うことを目的として、2014年に設立。

「高梁川流域ソーシャルビジネス推進事業(倉敷市/2014～2016年)」「お茶と町並みで点てる玉島の魅力創出事業(倉敷市/2015年)」「水島中心地域まちづくり研修事業(倉敷市委託事業/2015年)」「高梁川流域経済成長戦略セミナー開催補助業務(倉敷市/2015年)」「ピオーネ・パウダー・プロジェクト(倉敷市がんばる中小企業応援補助金)/2015年」「テレワークで紡ぐデータキャピタル事業(倉敷市/2016年)」等の企画・運営を担当。

総務省「ふるさとテレワーク推進事業」の採択を受け、倉敷市・倉敷芸術科学大学・日本テレワーク協会とのコンソーシアムの幹事団体

として、倉敷市中央2丁目に「サテライトオフィス&コワーキングスペース 住吉の家 分福(ぶんぶく)」の創設を企画・プロデュースする(2017年)。

高梁川流域ソーシャルビジネス支援センター

Takahashigawa Social Business Center

ミッション メッセージ チーム 支援メニュー 組織紹介 ステークホルダー アクセス



倉敷市からの委託により、ソーシャルビジネスセンターを運営

備中邦楽の里フェスタ実行委員会 概要・実績

備中地域において、和楽器・邦楽によるまちづくり、地域活性化を目的として、2014年に設立。

備中邦楽の里フェスタ in 玉島(商店街にぎわい補助金/2014年度)、倉敷市文化遺産を活かした地域活性化事業(文化庁補助事業/2015年度)、備中邦楽の里フェスタ2016(高梁川流域観光プロモーション事業/2016年度)、高梁川カフェ〜和楽器演奏をキーコンテンツとした魅力発信〜(高梁川流域圏環路開拓支援補助金/2016年度)などの企画・運営を実施。

「聴覚障害者のための和太鼓ワークショップ」を、岡山聾学校、岡山県聴覚障害者福祉協会、岡山聴覚障害者支援センター等との連携により、企画・実施する(2017年度)。



美観地区を中心として、音楽イベント等、文化体験・観光事業を展開。

備中「聞き書き」実行委員会

団体住所：〒719-1126 岡山県総社市総社2-15-28
 電話：070-5670-7874
 E-mail：kibikobo.yui@gmail.com
 URL：https://www.facebook.com/kikikakiokayama/
 実行委員：12名
 代表者：代表 平田 勉
 設立：平成22年4月

団体の経緯

- ・平成22年度笠岡市市民提案型協働事業に採択され笠岡の高校生有志により実施
- ・平成23年度から平成26年度 岡山県備中県民局協働提案事業に採択され備中地域の高校生有志により実施
- ・平成25年度岡山県生き活き岡山推進賞を受賞
- ・平成27年度岡山県多様な主体による地域支援事業に採択され実施
- ・平成28年度海洋教育バイオニクスプログラムに採択され備中地域の高校生及び県内大学生有志により実施
- ・平成29年度海洋教育バイオニクスプログラムに笠岡工業高校・矢掛高校・岡山後楽館高校・真庭高校が申請、採択され県内高校生及び大学生有志により実施。また、OB・OGの地域活動と人材育成を目的とする仕組みづくりのため、実行委員会「結」を立ち上げ離島センターの助成事業に採択され、笠岡諸島飛島にて実施。
- ・平成27年度にスタートした高梁川流域学校の連携事業。若者の人材育成プログラムとして実施

団体の目的

地域は人と人との集合体である。そして、人はさまざまな経験を積み重ねながら生きている。その人生の生き方や働き方、の中で培ってきた知恵や技術、身体で覚えた感覚、過去の記憶や未来への願い等。それらをすべてひっくるめて、その人の人生を丸ごと受け止め、文章にまとめる作業が「聞き書き」だ。

経済という物差しだけでは測れない、日々の暮らしに見出す「安心」と「豊かさ」、自然と共に生きてきた「自信」「誇り」、人と人が助け合い世代をつなぐ「心」。「地域で暮らす匠（人生の先輩）」の人生を記録する中から、高校生・大学生は多くの価値を学び、共有する世代を超えたネットワークから、持続可能な未来へと『世代をつなぐ』『地域をつなぐ』『歴史をつなぐ』活動を生み出すことを目的とする。

(SDGs ④⑧⑪⑫)



●白石島宿泊研修会(海ごみについて)



●津黒ふれあいの里(里山整備体験)



●「聞き書き」フォーラム

一般社団法人水辺のユニオン

団体住所：〒710-0055 倉敷市阿知3丁目5-5
 電話：086-434-8400
 FAX：086-441-1228
 E-mail：okanoc@gmail.com
 URL：http://www.w-union.jp/
 理事会：理事10名 監事1名
 代表者：代表理事 岡野 智博
 会員数：正会員20名、賛助会員2名
 年会費：正会員10,000円、賛助会員10,000円
 設立：平成22年（西暦2010）年1月26日

■ 団体発足の経緯

2007年度倉敷商工会議所を中心とした産学官連携組織が経済産業省「広域・総合観光集客サービス支援事業」に採択され、高梁川流域の「鉄の径」「酒蔵めぐり」観光など広域観光ルートの開発を行った。2008年からは高梁川学校を立ち上げ、単なるテーマ観光から着地型観光への展開を図り、その実現のため人材の育成と経営的に自立した継続的な事業体の構築を目的とした。その成果をもとに、2010年1月に観光産業だけでなく流域の活性化とQOL向上を目的として、高梁川流域の「水」でつながる個人・団体からなる流域連携を実践する当法人を設立した。

■ 団体の目的

高梁川流域の豊かで多様な資源を活用した地域活性化事業を通して、地域経済の振興に寄与するとともに、地域生活の質の向上を図ることを目的とした事業を行う。

■ 主な活動

【着地型観光・集客イベント企画】

H23年度「龍の仕事展」（岡山県備中県民局）
 H23～H27年度「文化遺産を活用した観光振興・地域活性化事業」（文化庁）重要文化財大橋家住宅の活用
 H23年度～「高梁川マルシェ」（地域文化フェスティバル）
 H27年～H29年度～ 高梁川トレイルによる風土ツーリズム開発（岡山県備中県民局協働事業）
 H26年～H28年度 SAVE JAPANプロジェクト（希少種生物の保護活動）
 H28年～ 備中ジビエ料理コンテスト主催
 H29年4月～ 「倉敷中島屋」運営

【地域商品の開発・流通販売】

H22年度「ICT雇用創造ふるさと絆プロジェクト」（総務省）新見道の駅ネットショップ構築
 H23年度「地域力新事業∞全国展開事業」（中小企業庁）
 H25年度 摘果した清水白桃ピクルス開発
 H27年度 シシ肉缶詰「コン猪」開発
 H28年度 備中ジビエ料理コンテストを主催

【地域産業人材の育成】

H22～25年度から「就業力育成支援事業」（文部科学省）
 H24年度 GREEN DAYS COLLEGE 事業（岡山県備中県民局）

H25～26年度 備中志塾（文化庁）

【森林間伐活動と循環型エネルギー事業】

H22～26年度から新見神郷「環境保全型森林間伐ボランティア事業」（おかやま森づくり県民基金+緑の基金）

H28年度 高梁成羽森林間伐（森づくりサポート事業）



●高梁川マルシェ（国指定重要文化財大橋家住宅）



●高梁川トレイル（高梁市成羽魚荷道）



●コン猪（シシ肉の塩漬け）の開発

■ これからの課題など

- (1)これまで実施してきた活動やプログラムを磨き上げて、協働する仲間を増やして、魅力化・商品化すること。
- (2)高梁川流域学校の学びのプログラムの中で、位置づけを明確化して体系的に学ぶ仕組みを作ること。
- (3)組織基盤の強化と経営的な自立を図ること。補助金の依存しない収益と協働の仕組みを構築する。高梁川マルシェコンセプトショップ「倉敷中島屋」の運営。

そうじゃ ぼっけえ造形の会

団体住所：〒719-1126 岡山県総社市総社2-15-28
 電話：070-5670-7874（事務局 森光）
 E-mail：kibikobo.yui@gmail.com
 WEB：https://www.facebook.com/soujyazoukeinokai/
 会員：11名
 代表者：布下 満
 設立：平成24年1月1日



団体の経緯

平成25年度に全国造形フォーラムが総社で開催されることになり、実行委員会を立ち上げ、これを機に、造形活動を積極的に実施している。

・平成26年9月27日(土)28日(日)

地域で咲かすいのちのちから～全国造形フォーラム in 総社～を開催（会場：総社市立常盤小学校・常盤幼稚園）全国から約300名が参加。

・平成28年度第1回子ども造形ひろばを総社市立常盤小学校にて開催、30名が受講。

・平成29年度第2回子ども造形ひろばを総社市立常盤小学校にて開催、30名が受講。

・平成29年度公益財団法人総社市文化振興財団文化事業、一般社団法人高梁川流域学校の連携事業として実施。

団体の目的

会員相互の親睦と造形・美術活動を深めるとともに、地域文化の向上に努めることを目的とする。

・学校や家庭ではできない「掘り下げていく造形活動」を通して想像力、ひいては(元気になる)生きる力を学ぶ。

・吉備文化発祥の地、総社が生み育んだ文化を見つめ直し、造形あそび(活動)を通して、子どもたちと共に創り出す力・生きる力を見つめたい。

(SDGs 4)



展覧会



開講式



ダンボールであそぼう!



世界にたったひとつの ぼく・わたし
 ～Tシャツに自画像をかく～

公益財団法人 水島地域環境再生財団(みずしま財団)

団体住所：〒712-8034 岡山県倉敷市水島西栄町13-23
 電話：086-440-0121
 E-mail：webmaster@mizushima-for.jp
 URL：http://www.mizushima-for.jp/
 理事会：理事9名(理事長：石田 正也)
 賛助会員数：個人117名、団体23団体、法人17法人
 (2018/3/13時点)
 年会費：個人1,000円/口 3口から、団体10,000円/口
 1口から、法人10,000円/口 2口から
 設立：2000(平成12)年3月(2011年11月公益財団
 法人に移行)

■ 団体発足の経緯

岡山県倉敷市水島地域では、1983年に提訴された倉敷大気汚染公害裁判が、13年の係争を経て、1996年12月、和解が成立しました。和解の中で「水島地域の生活環境の改善のために解決金が使われる」ことに両者が合意しました。和解金の一部を基金に、みずしま財団が2000年3月、住民を主体に、行政・企業など水島地域の様々な関係者と専門家が協働する拠点として発足しました。

■ 団体の目的

水島の経験や活動を広く全国や世界各地と情報交換することにより、岡山県内において将来の世代が安心して暮らせる環境を保全創出することを目的としています。

■ 主な活動

活動を通じて、新しい環境文化を創出し、「豊かな地域社会」に貢献することが求められています。1999年の財団設立準備会時代から、地域の中心を流れる八間川で子どもたちと一緒に生きもの調査を始めました。

財団発足後の動きを紹介します。

- 2000年3月 岡山県許可の財団法人として発足
備讃瀬戸海域を中心とした海底ゴミの実態把握調査開始
 - 2010年6月 「第1回いきものにぎわい市民活動大賞
富士フィルム・グリーンファンド活動奨励賞」を受賞、(財)日本ソロ
ブチミスト日本財団 環境貢献賞を受賞
 - 7月 日本水大賞 審査部会特別賞を受賞
 - 2011年11月 公益財団法人に移行
 - 2013年8月 環境学習を通じた人材育成・まちづくりを考える協議
会を発足
 - 2016年12月 シンポジウム「世界一の環境学習のまち・水島を目
指して」開催
- 現在中心的に取り組んでいる、「協働による学びを通じた地域づくり」の活動をご紹介します。

■ 協働取組による学びを通じた地域づくり

水島地域における様々な主体が協働した地域づくりの取組として、2013年8月に「環境学習を通じた人材育成・まちづくりを考える協議会」を立ち上げ、「新しい学びのしくみづくり」の提案を行い、3つのワーキンググループで具体的に取り組んでいます。



1) 環境学習推進ワーキンググループ



大学教員、NPO、企業OB等がメンバーとなり、水島の資源を活かしたプログラムの検討や、解説のできる人材育成などに取り組んでいます。中学生向けの教材として環境学習リーフレット「みずしまの環境学習ようこそ」を作成し、活用しています。2017年度には、地域住民の方向けに水島学講座(教材づくり挑戦編)を開催しました

2) 企業市民ワーキンググループ



企業と地域との関係性づくりに取り組んでいます。水島コンビナート企業のCSR(企業の社会的責任)に関するアンケート調査、「企業のCSRを学ぶ勉強会」を開催しています。また子どもたちが参加できるものとして「水島コンビナートをもっと知ろう環境学習ツアー」、「みずしまエコクルーズ」を企業の方の協力を得て実施しました。

3) 地域交流ワーキンググループ



地域に住む人々が地域を知ること、地域への誇りと愛着を育むこと、そして地域内外との交流を目的としています。水島を知り、学びを支える人材育成を目的とした「水島学講座(歴史編)」では、古代の水島や新田開発・コンビナート開発の歴史を学びましたが、毎回好評でした。実際に現地を巡る「バイクビズ・みずしま」イベントも行っています。

■ これからの課題など

水島での“新しい学びのしくみ”による地域づくりの取組をいかにして持続させていくかが課題です。そのために、水島での学びのプログラムを充実させることや、滞在しながら長期間で地域で学ぶことのできる体制など、協働で実施していきたいと考えています。

高梁川流域学校「111人委員会」募集趣意書

平成30年1月5日

(一社)高梁川流域学校 代表理事 大久保憲作

大原總一郎氏の高い理想を基に高梁川流域連盟が設立されて61年目、岡山県美星町出身の民俗学者神崎宣武先生を校長に迎え、高梁川流域学校が開校しました。平成27年6月のことです。

神崎校長がいつも言われていること。

風土が文化を育んできたのです。風土は自然環境といいかえることができます。文化とは、そこでの暮らし方のクセのようなものと言い換えてもよいでしょう。私たちは、高梁川流域の風土、歴史や文化を学び、大事に次の世代に伝えなければならないのです。

高梁川流域学校は、地域からの「学び」をキーワードに流域各地で運動や行事を企画し実施して参りました。国や岡山県、倉敷市など高梁川流域連盟に所属する7市3町の市町はもとより、流域内外の心ある企業や団体そして大勢の個人に支えられ今に至っています。

どうすれば持続可能な運動として自立できるのか。暗中模索の3年でした。志を持つ人がいて、その人々の志が、やがて地域の未来をかたち創ると信じています。そういう人々を生み出す仕組みのひとつが高梁川流域学校であれば望外の喜びです。

その為には志をもつ人々を周りで見守り支援する方々が必要です。

「111人委員会」とはそのような個人が集まった組織です。

高梁川流域は今もそして未来も、人として真に豊かな暮らしが実現できる場所だ
という思いを共有し、その方々と共に目指していきたいのです。

「111人委員会」の名称の由来

新見市花見山の源流から滔々と流れ、倉敷市の水島灘に至り瀬戸内海に注ぐ母なる川高梁川の総延長111キロメートルに因んでいます。

委員は総勢111人、高梁川流域学校の理念に賛同し、行事に参加する支援者であると同時に、厳しいご意見番であって欲しいと考えています。

寄付金・助成金のお礼

平成29年度、下記の皆さまには当団体の活動にご理解いただき、多大なる寄付金、助成金を頂きました。ここにそのご厚意に対し深く感謝の意を表します。

皆さまのご期待に応えるよう、高梁川流域学校の関係者一同は、益々精進していくつもりでおります。今後ともご指導よろしく願いいたします。

玉島信用金庫 様
吉備信用金庫 様
水島信用金庫 様
備北信用金庫 様
高梁川流域連盟 様



組織概要

校長	神崎 宣武	(民俗学者 旅の文化研究所所長・文化庁文化審議会専門委員)
顧問	澁澤 寿一	(認定特定非営利活動法人共存の森ネットワーク 理事長)
顧問	川嶋 直	(公益社団法人日本環境教育フォーラム 理事長)
顧問	大社 充	(特定非営利活動法人グローバルキャンパス 理事長)
顧問	山田 俊行	(トヨタ白川郷自然学校 学校長)
顧問	梶谷 俊介	(岡山トヨタ株式会社 代表取締役社長)
顧問	吉澤 保幸	(一般社団法人低炭素社会促進協会 代表理事)
代表理事	大久保 憲作	(倉敷木材株式会社 代表取締役会長)
副代表理事	坂本 万明	(株式会社倉敷ケーブルテレビ 顧問)
理事	森光 康恵	(きび工房「結」主宰)
理事	赤木 美子	(一般社団法人チカク 代表理事)
理事	中村 泰典	(特定非営利活動法人倉敷町家トラスト 代表理事)
理事	山下 武伺	(特定非営利活動法人フォレストフォーpeople岡山 理事長)
理事	坂ノ上 博史	(一般社団法人倉敷未来機構 代表理事)
理事	古川 明	(水島家守会社 Nadia Local Adviser)
理事	小桐 登	(一般社団法人おかやまエコサポーターズ 代表理事)
理事・事務局長	岡野 智博	(一般社団法人水辺のユニオン 代表理事)
監事	塩飽 敏史	(公益財団法人水島地域環境再生財団 研究員)
監事	安原 恭子	

高梁川流域学校のサポーターを募集しています

賛助会員へのご入会・ご寄附のお願い

私達の活動の趣旨に賛同し、支えて下さる賛助会員様、団体・個人の方からのご寄附を募集しています。ぜひサポーターとして、優れた地域教育プログラムを次世代につなぐ高梁川流域学校を応援してください。事務局あてにお名前・ご住所 / 連絡先をお知らせいただければ、入会申込書をお送りいたします。

高梁川流域学校 事務局

住所	〒710-0055 倉敷市阿知3丁目5-5
電話番号	090-4800-1110
FAX	050-3588-6427
メールアドレス	takahashi.river1506@gmail.com
ウェブページ	http://liron.jp



高梁川流域学校

一般社団法人 高梁川流域学校

【事務局】〒710-0055 倉敷市阿知3丁目5-5

TEL : 090-4800-1110 FAX : 050-3588-6427

E-MAIL : takahashi.river1506@gmail.com WEB : <http://liton.jp>